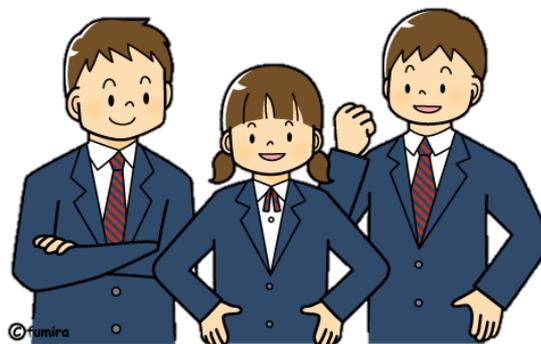


平成27年度
中学校 技術・家庭科に関する
第3回全国アンケート調査 【家庭分野】
調査報告

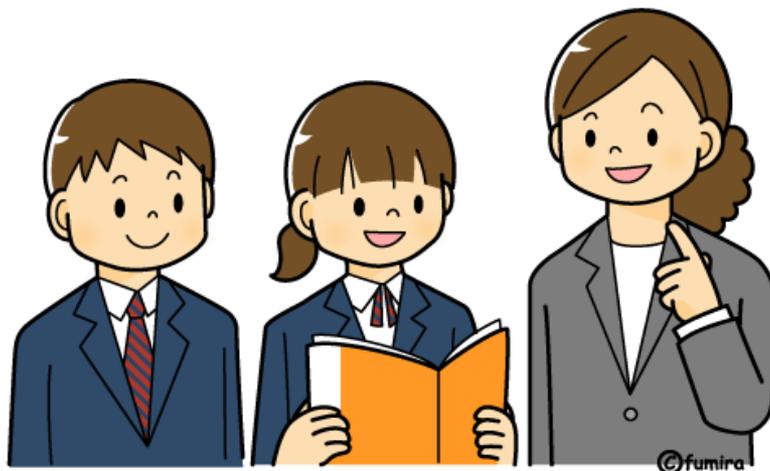


全日本中学校技術・家庭科研究会
研究調査部
調査協力：公益社団法人 全国中学校
産業教育教材振興協会

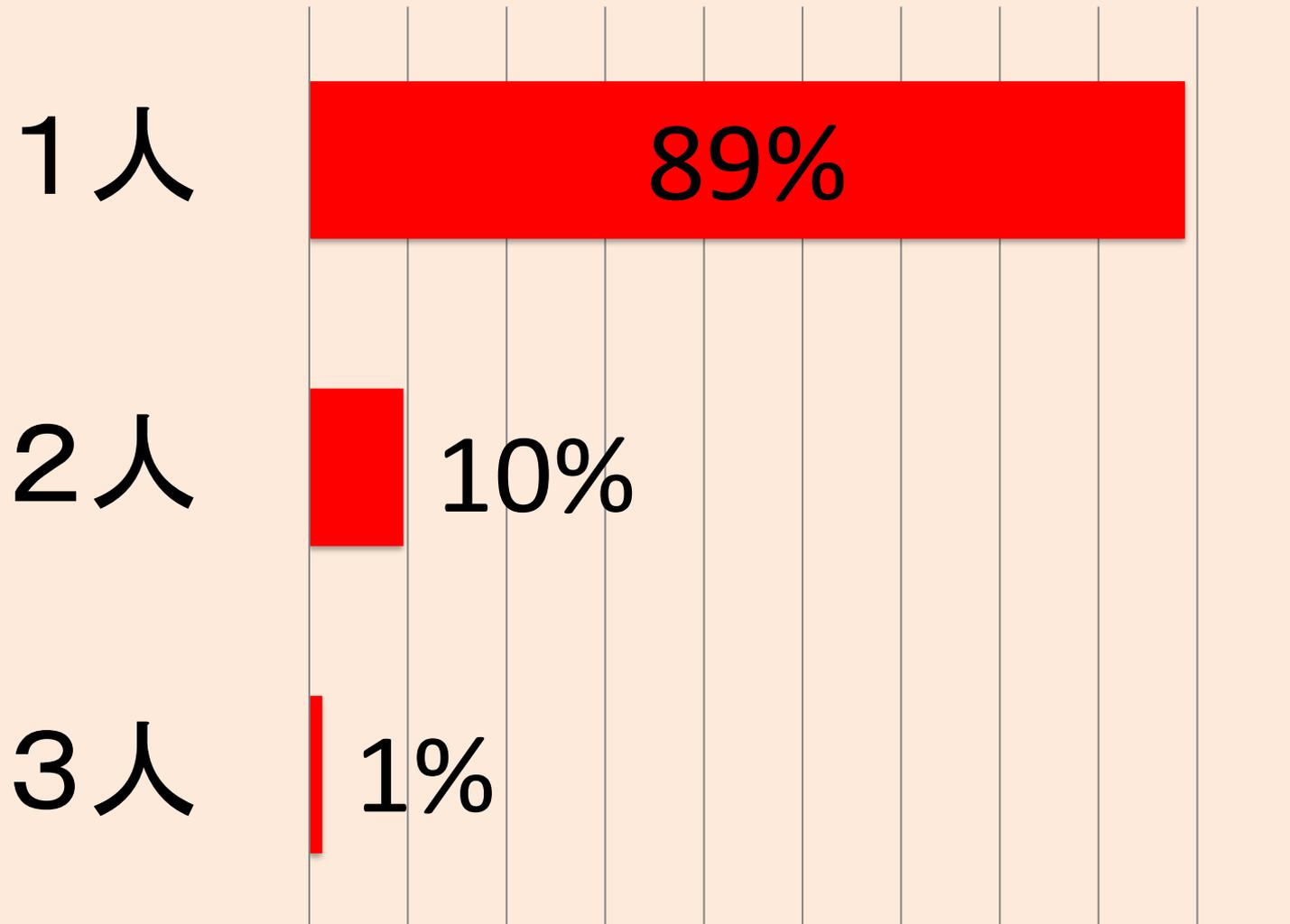
回答数

• 3253校 / 10593校

• 31%

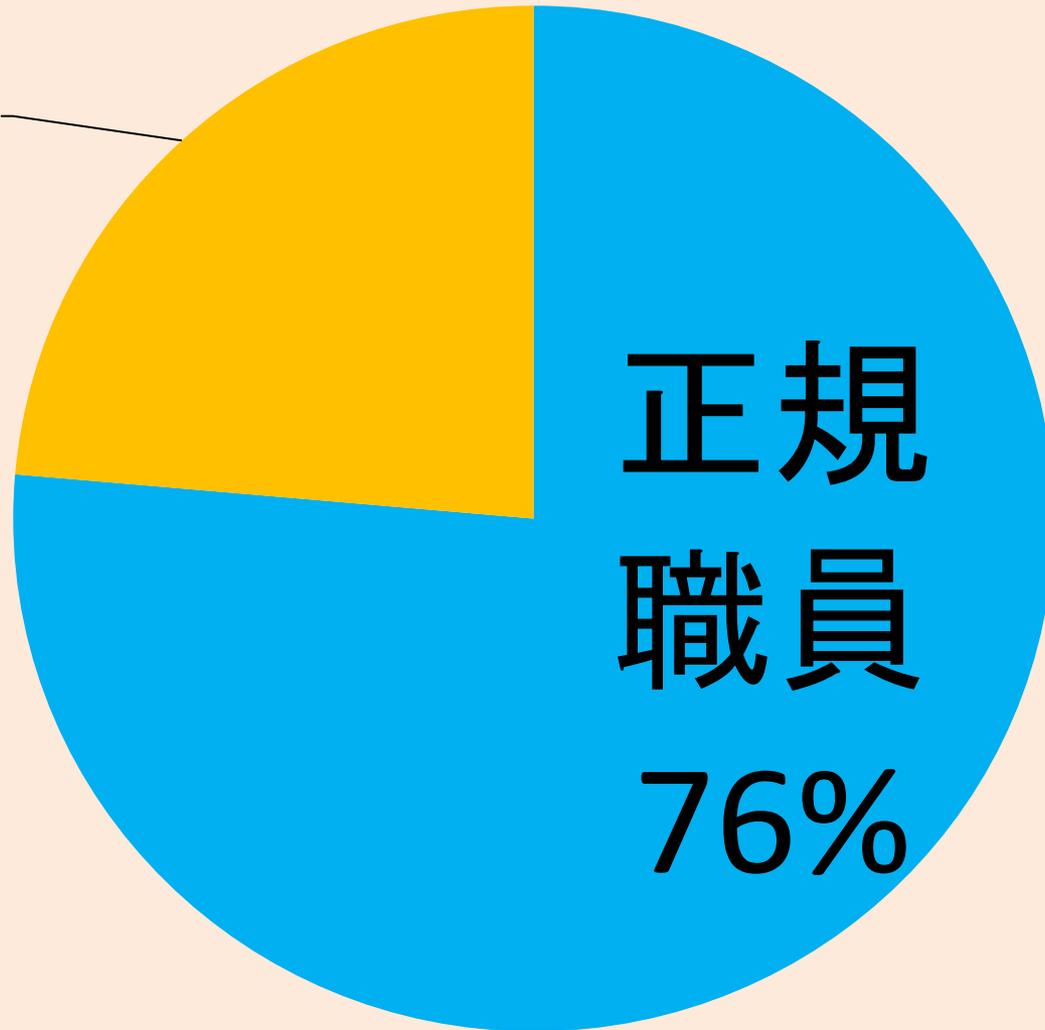


【1】家庭分野担当の教員数



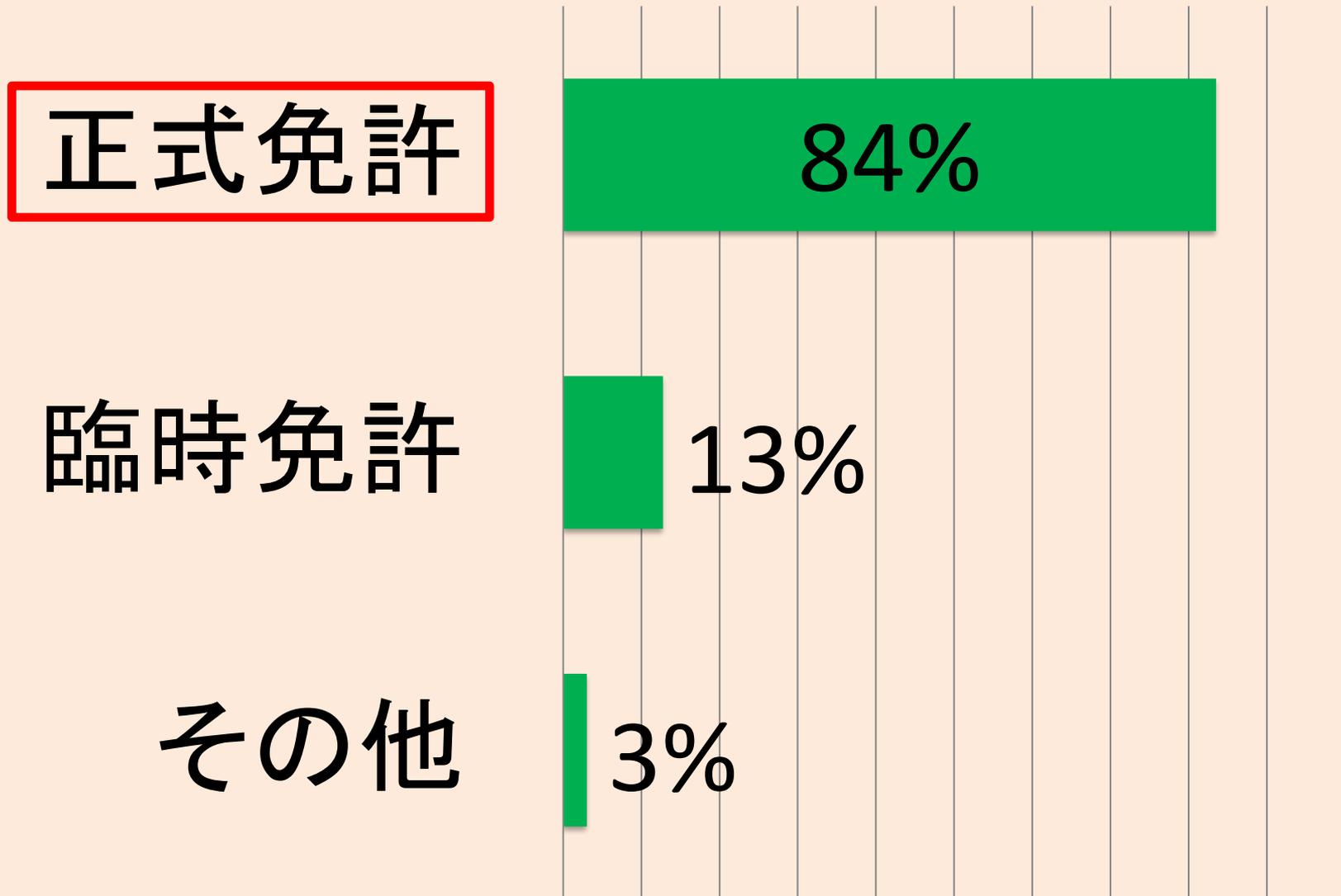
【2】勤務形態

期限付
職員、
非常勤
講師等
24%

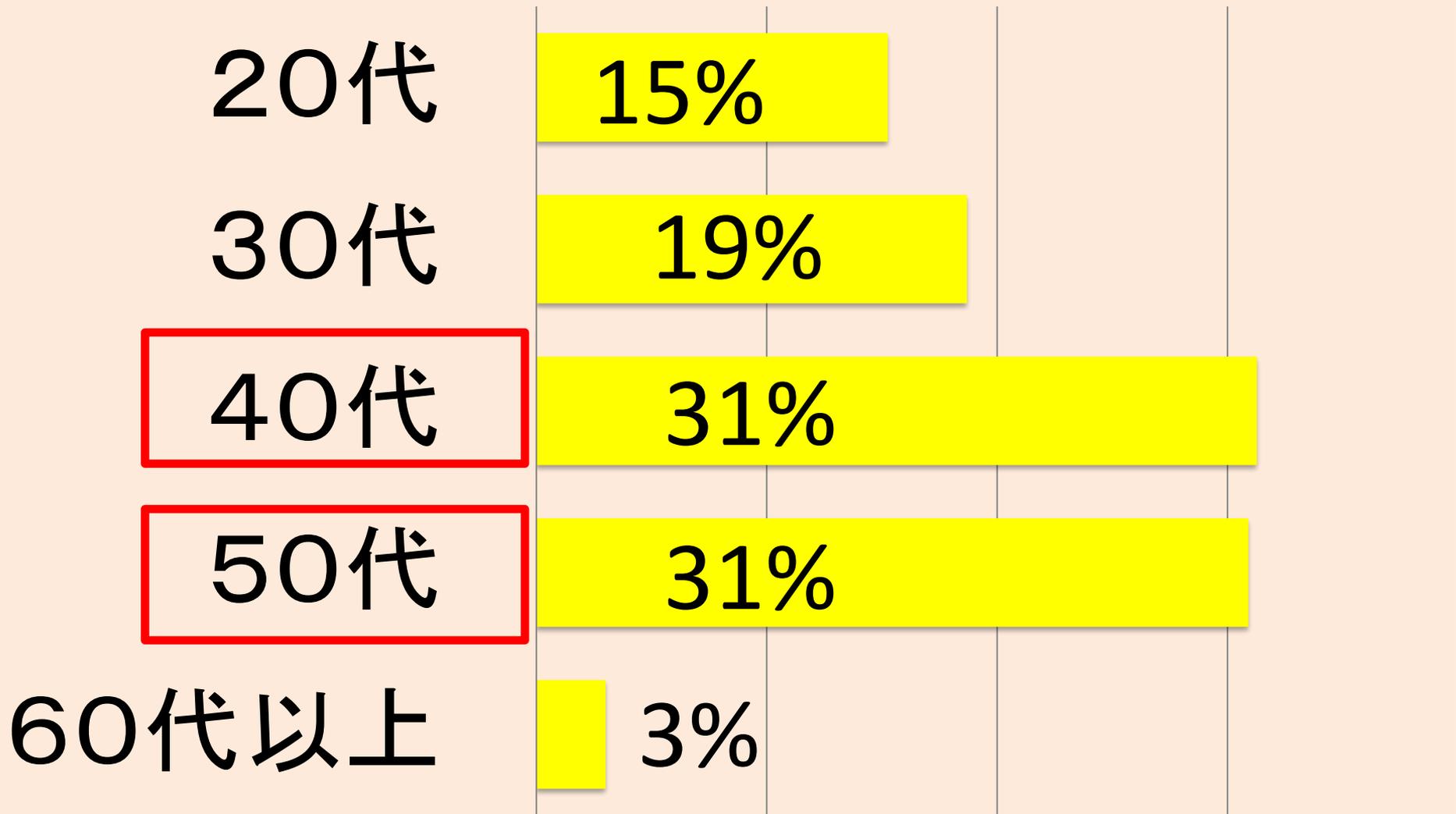


正規
職員
76%

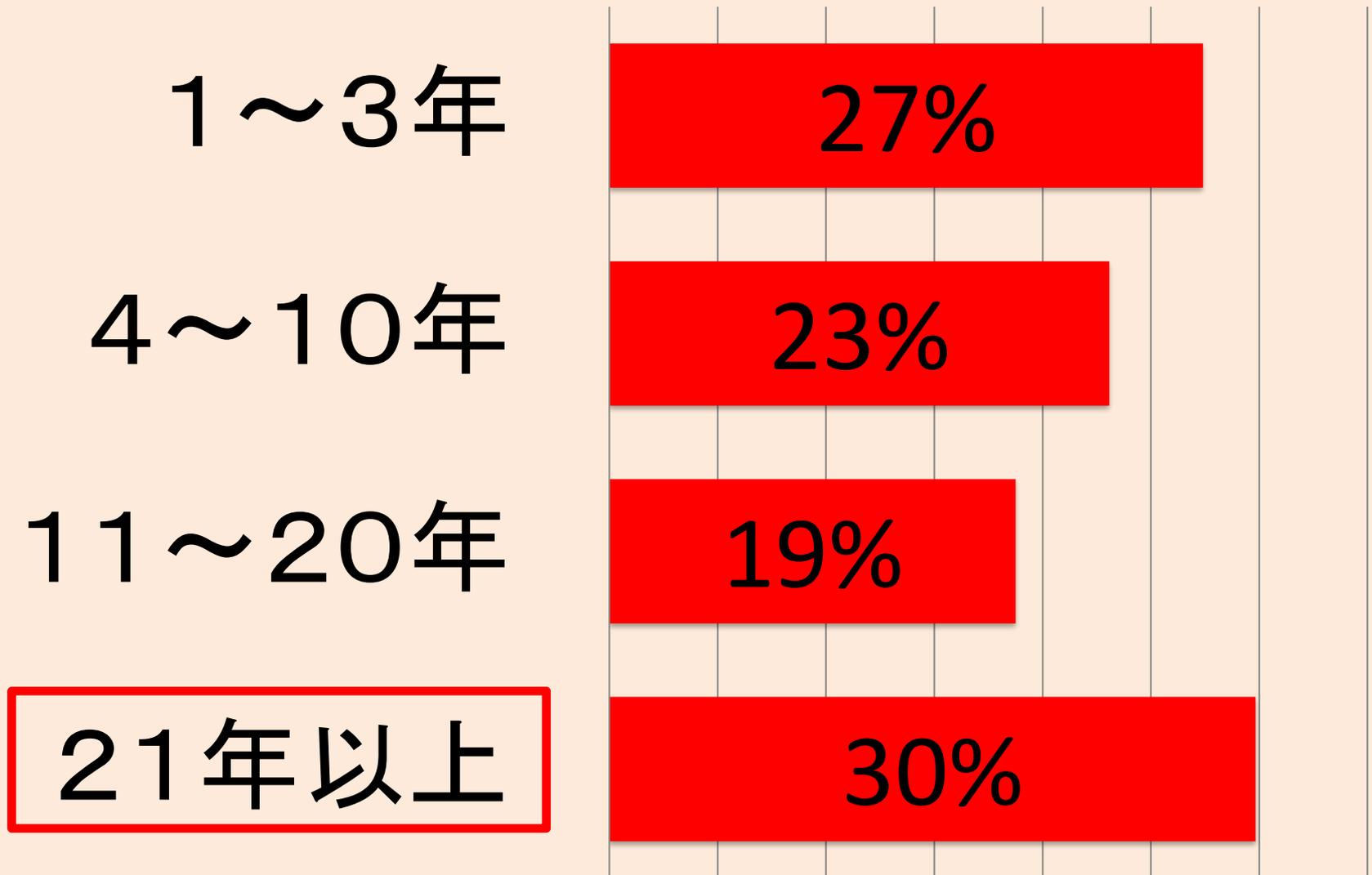
【3】教員免許資格



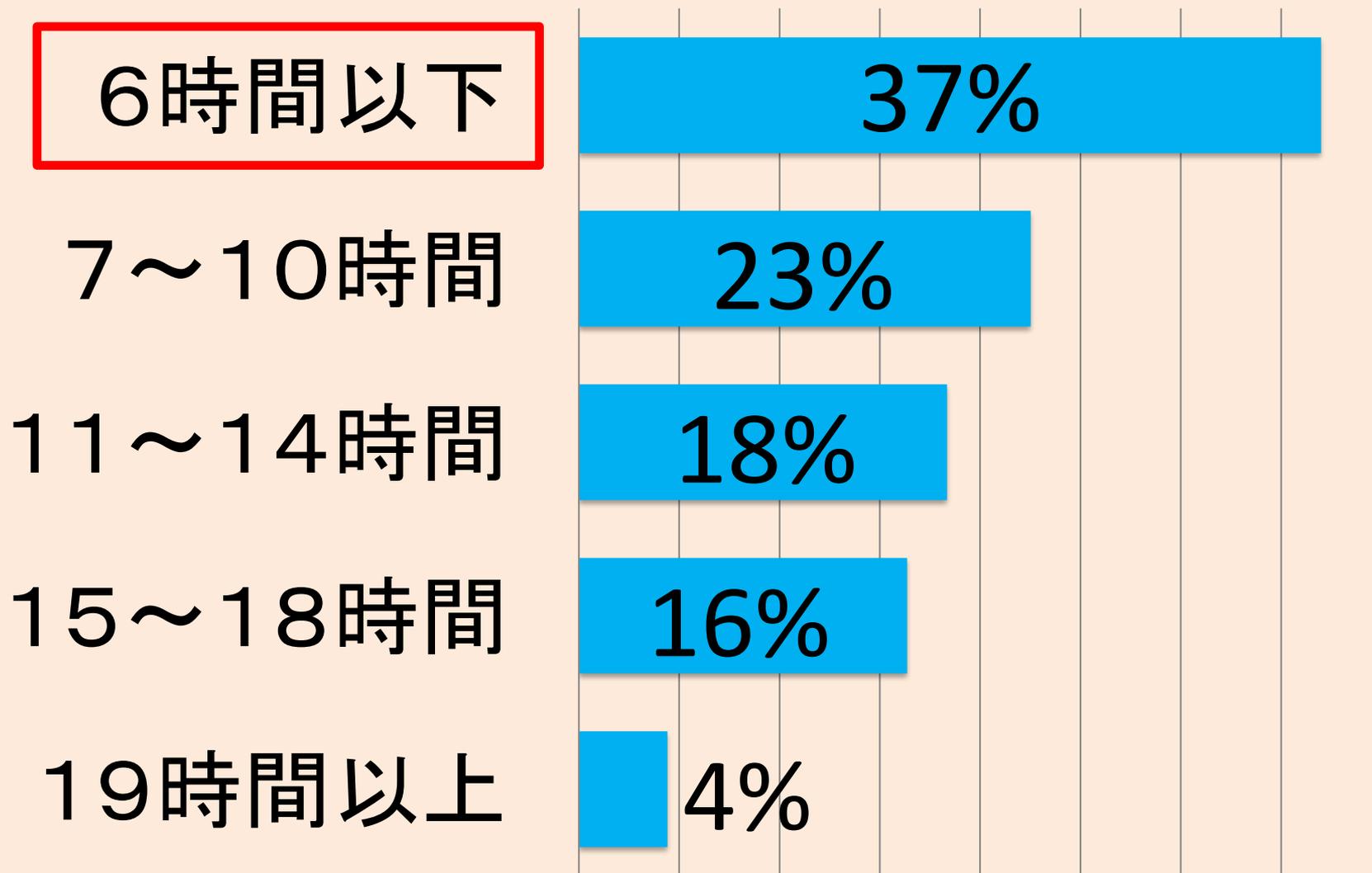
【4】年齒



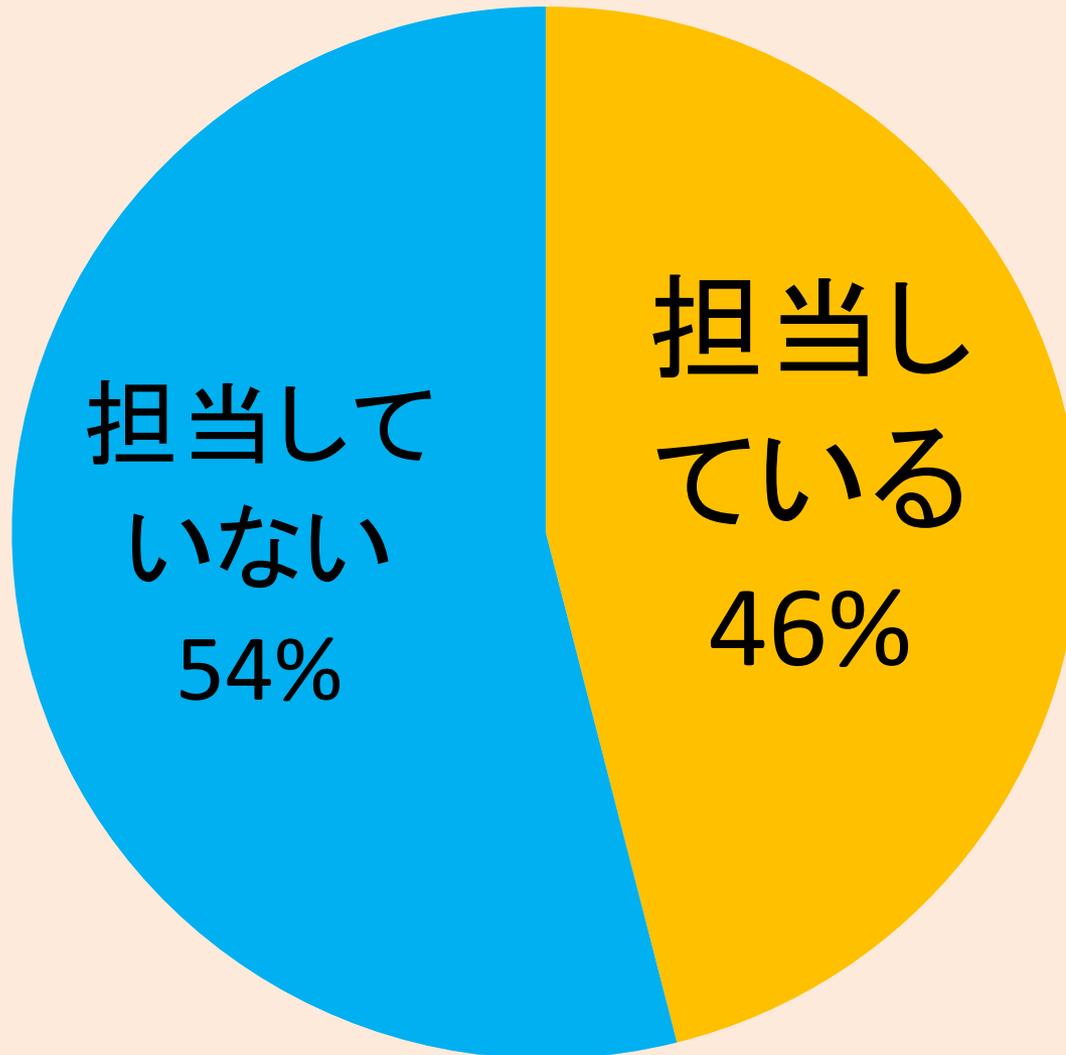
【5】家庭分野の指導経験



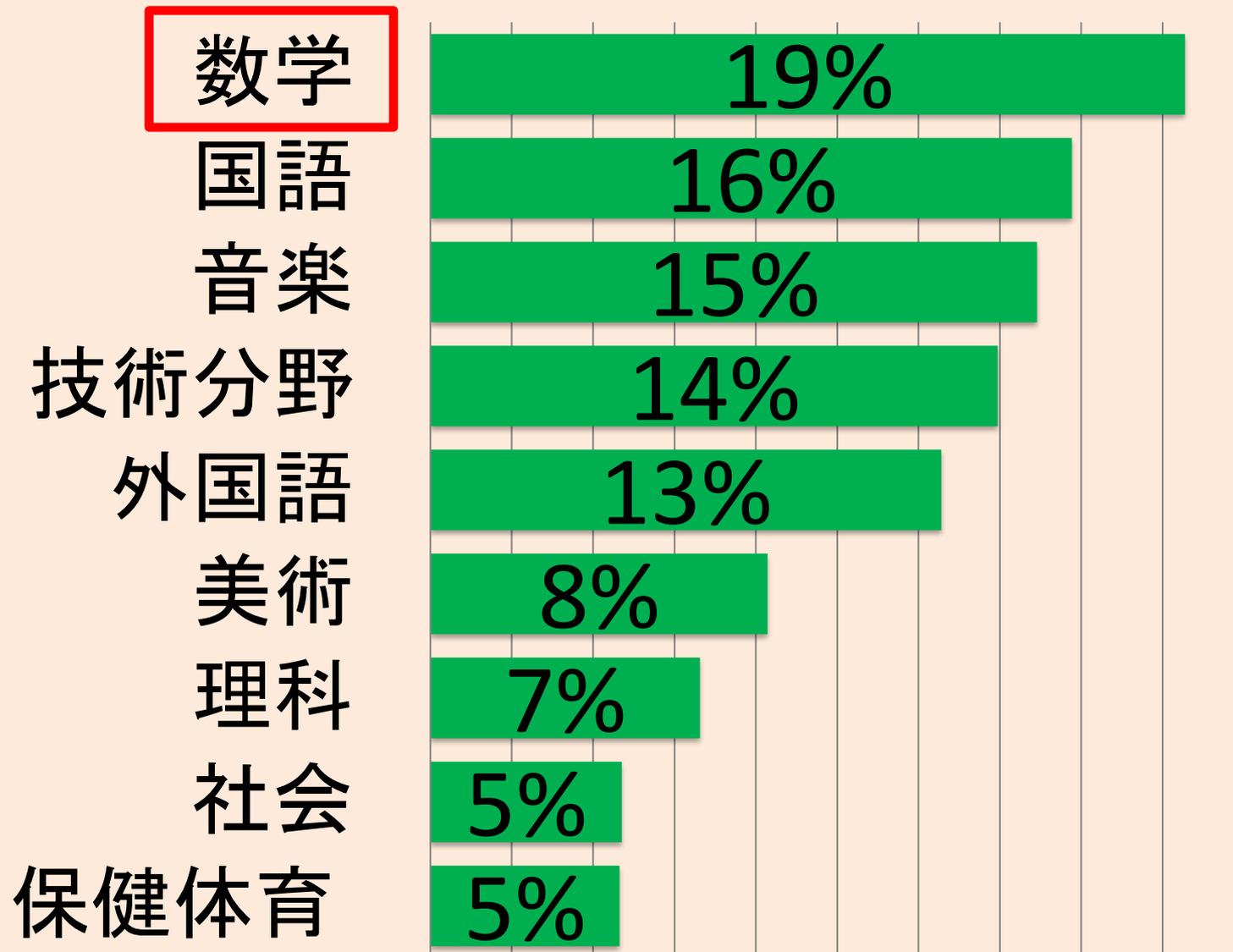
【6】週当たりの家庭分野の受け持ち授業 時数



【7】他教科の担当



【7-2】他の担当教科（複数回答可）



【7-3】専門とする教科

家庭分野

54%

家庭分野
以外

27%

(空欄)

19%

【8】今年度、家庭分野に関する研修 の受講回数

受けていない

35%

1回

17%

2回

15%

3回

10%

4回

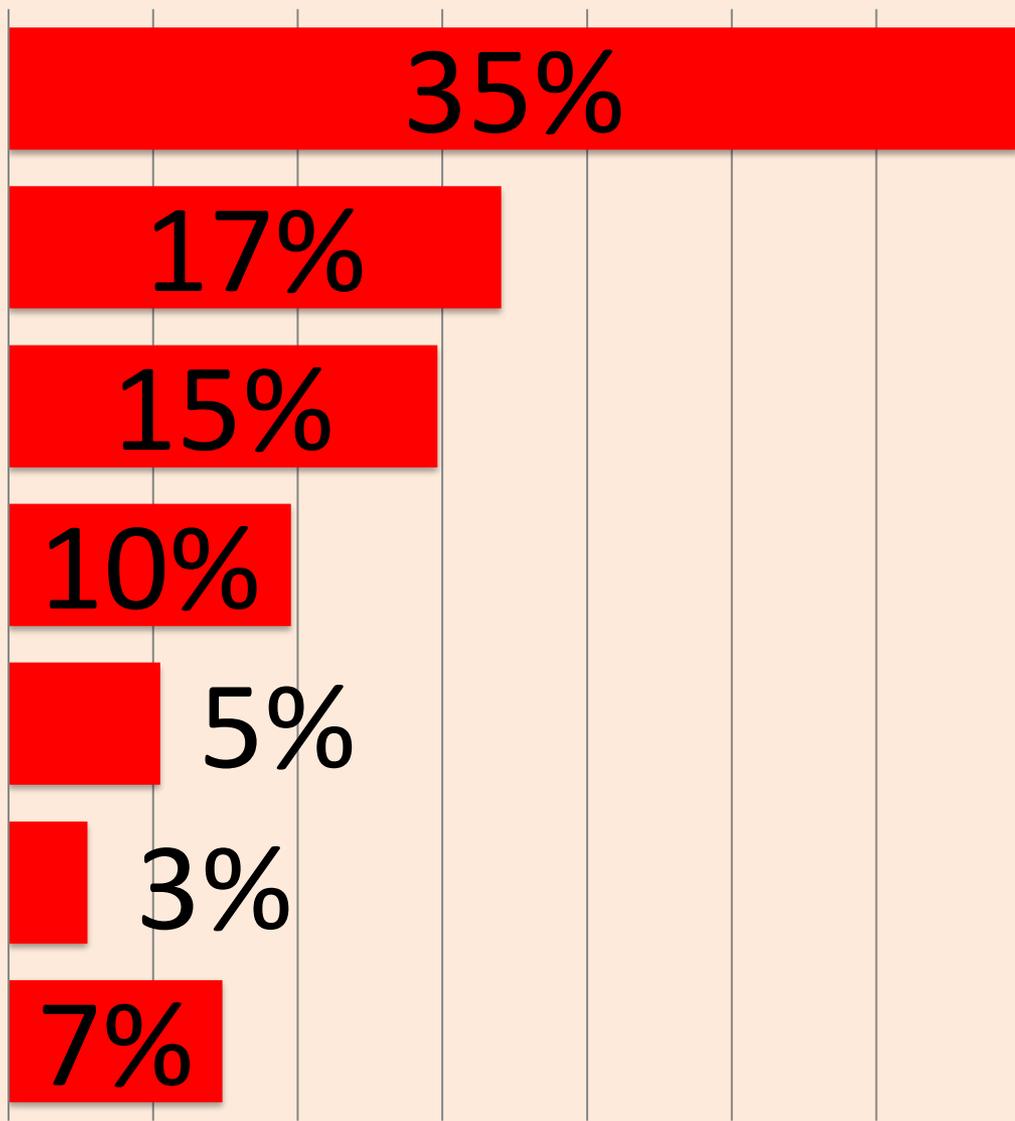
5%

5回

3%

6回以上

7%



【9】小学校の学習内容を踏まえて3年間の指導計画を作成しているか

している

41%

どちらかといえば、
している

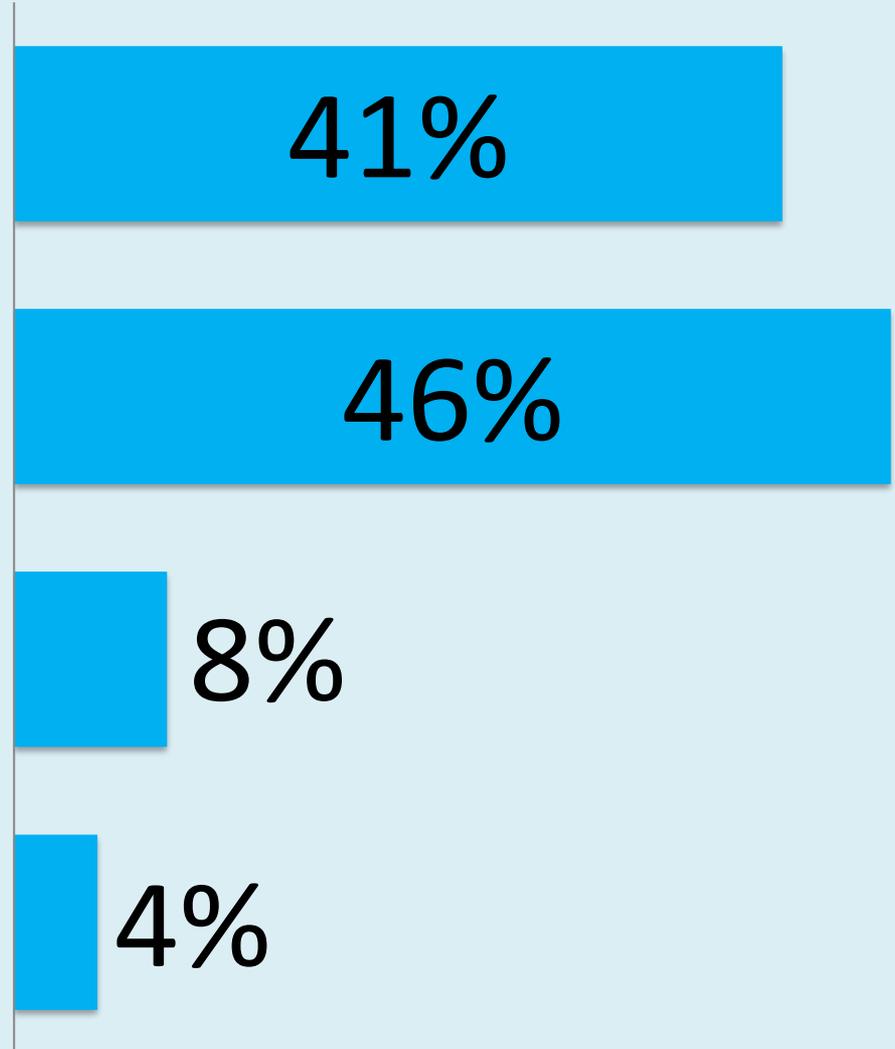
46%

どちらかといえば、
していない

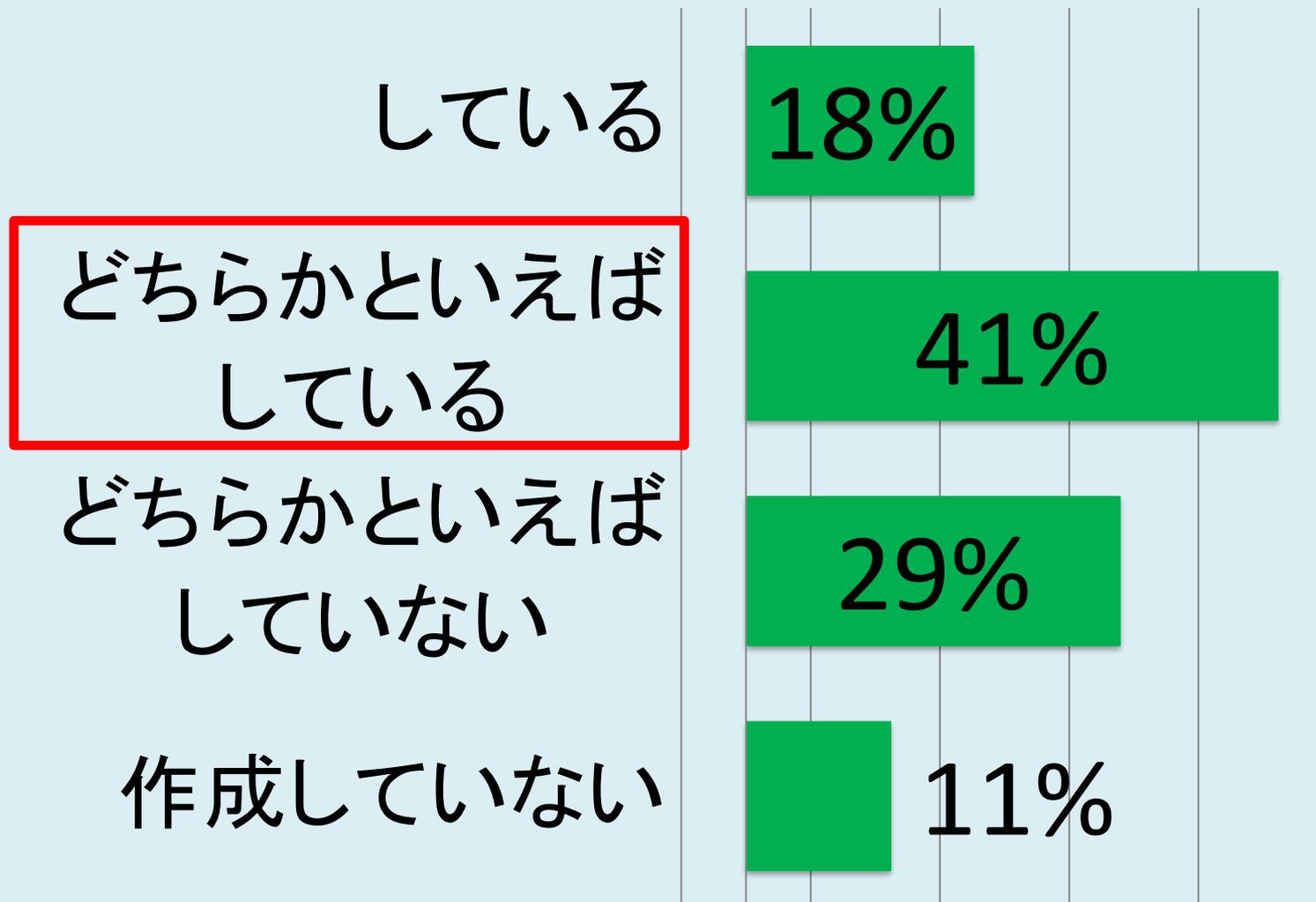
8%

していない

4%



【10】他教科等との関連を踏まえて3年間の指導計画を作成しているか



【11】第1学年の履修内容(複数回答可)

A 家族・家庭と子ども
の成長

20%

B 食生活と自立

39%

C 衣生活・住生活と
自立

29%

D 身近な消費生活と
環境

12%



【12】第2学年の履修内容（複数回答可）

A 家族・家庭と子ども
の成長

14%

B 食生活と自立

25%

C 衣生活・住生活と
自立

34%

D 身近な消費生活と
環境

27%



【13】第3学年の履修内容（複数回答可）

A 家族・家庭と子ども
の成長

56%

B 食生活と自立

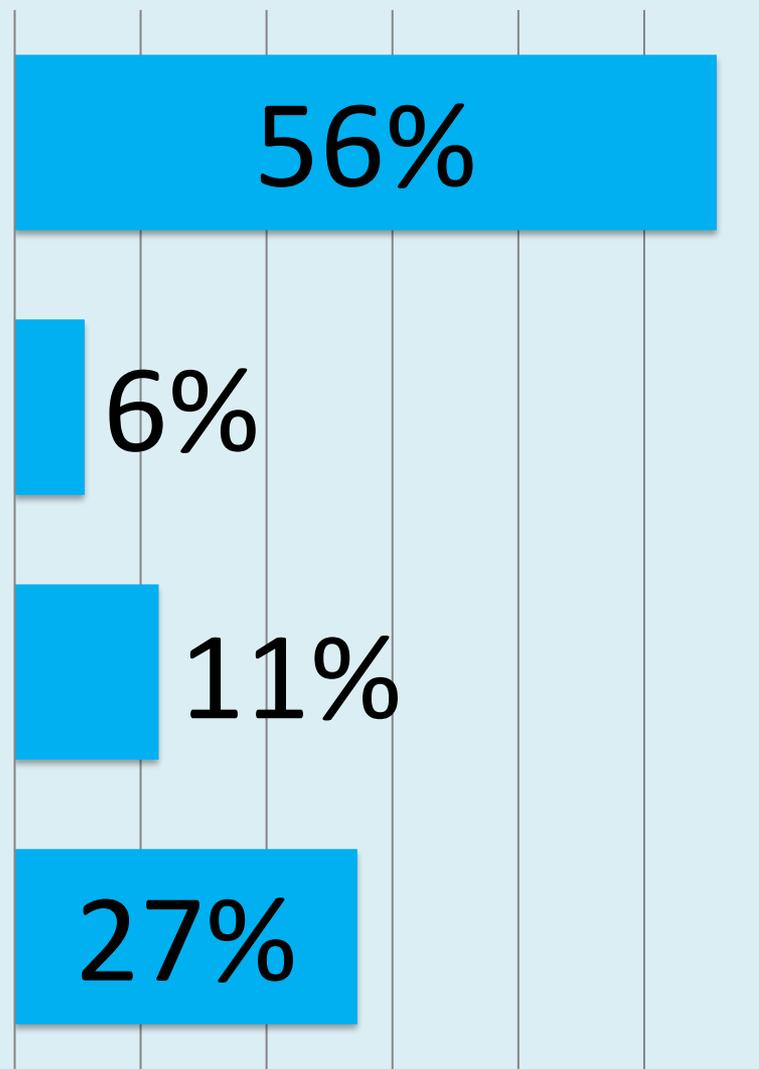
6%

C 衣生活・住生活と
自立

11%

D 身近な消費生活と
環境

27%



【14-1】内容A(家族・家庭と子どもの成長)の指導時数

6～10時間

15%

11～15時間

24%

16～20時間

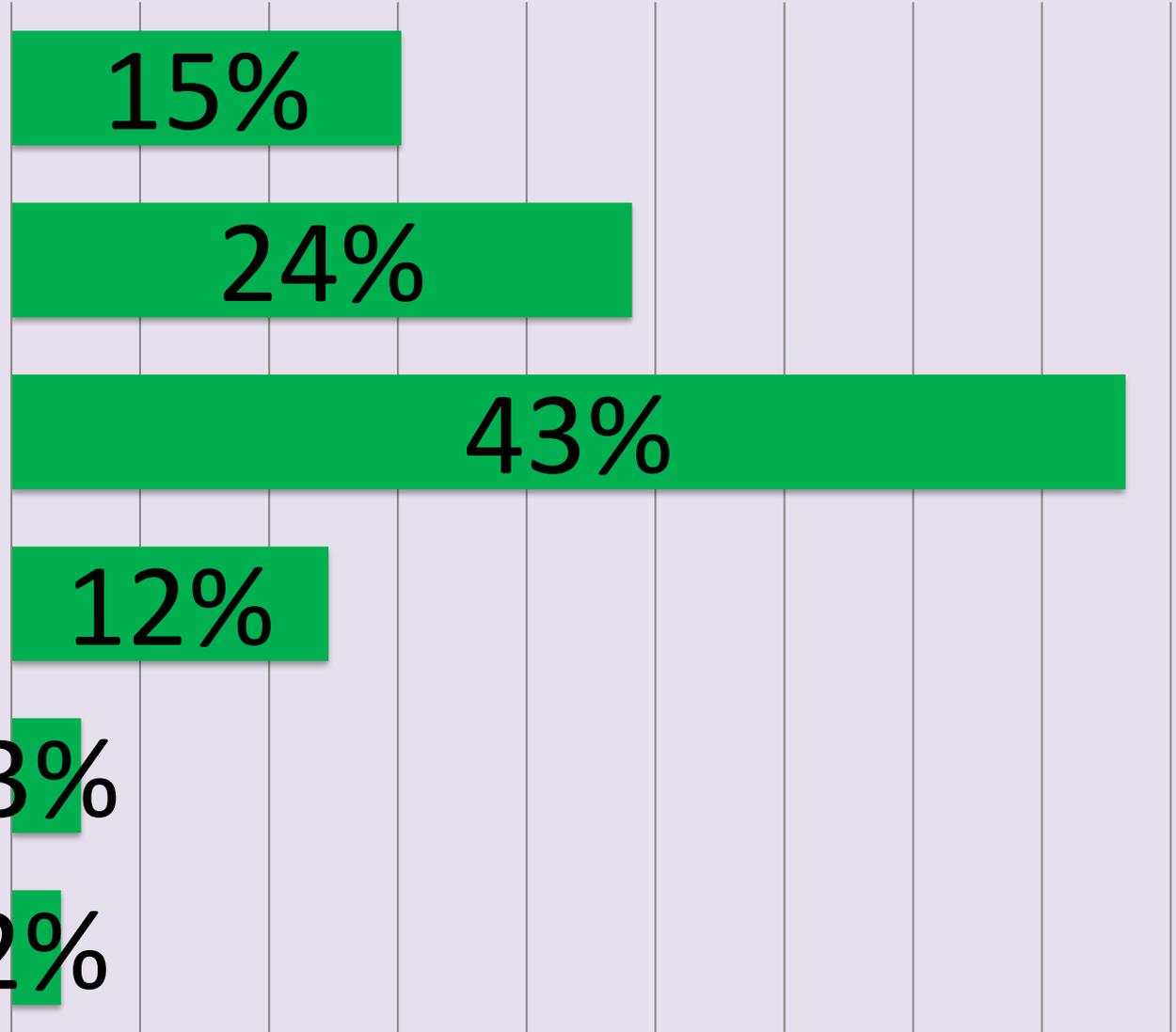
43%

21～25時間

12%

26～30時間 3%

31時間以上 2%



【14-2】Aのうち「幼児との触れ合い体験」にあてる時数



1時間以下

22%

2時間

39%

3時間

13%

4時間

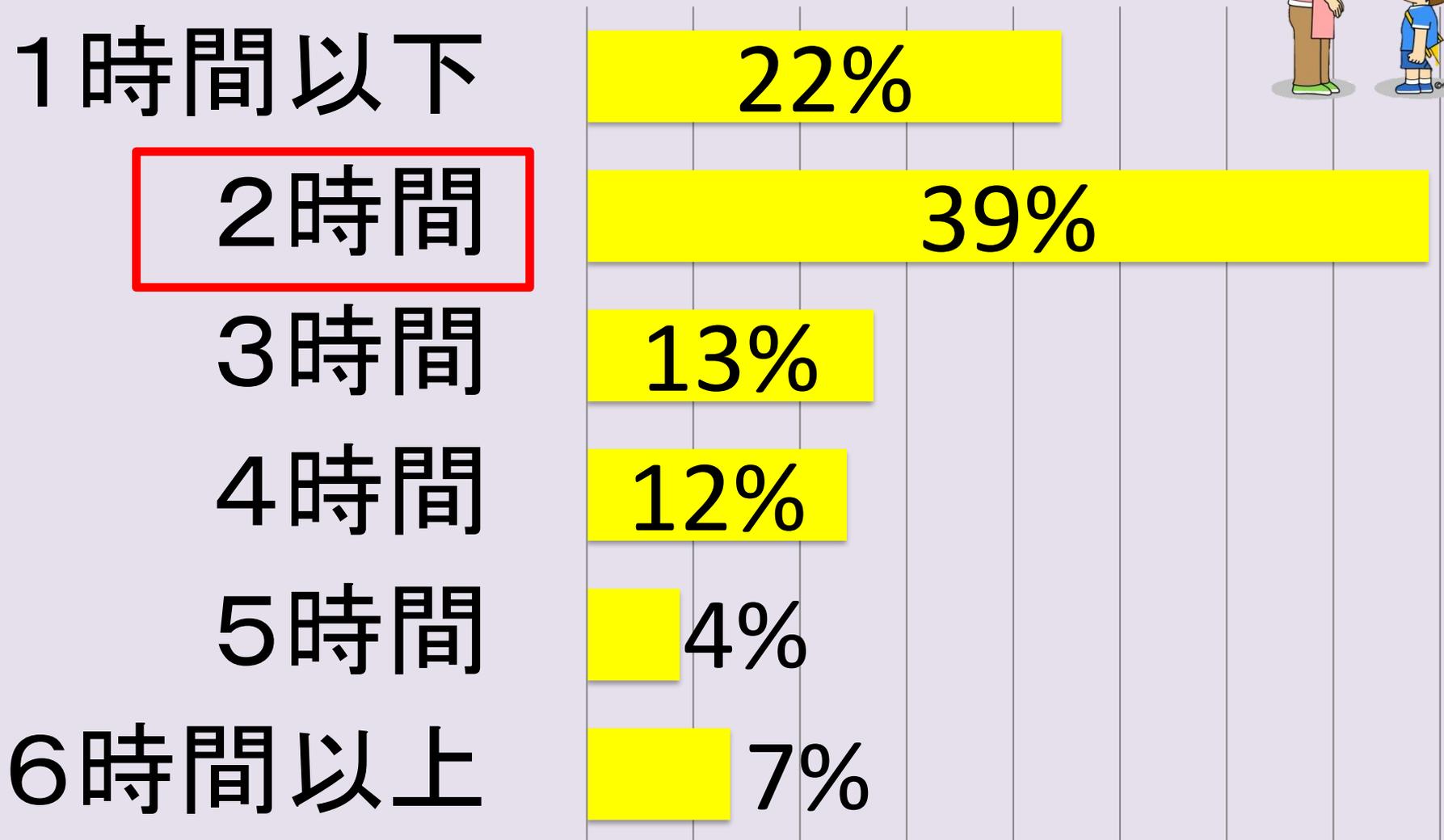
12%

5時間

4%

6時間以上

7%



【14-3】「幼児との触れ合い体験」の 実施学年



1学年

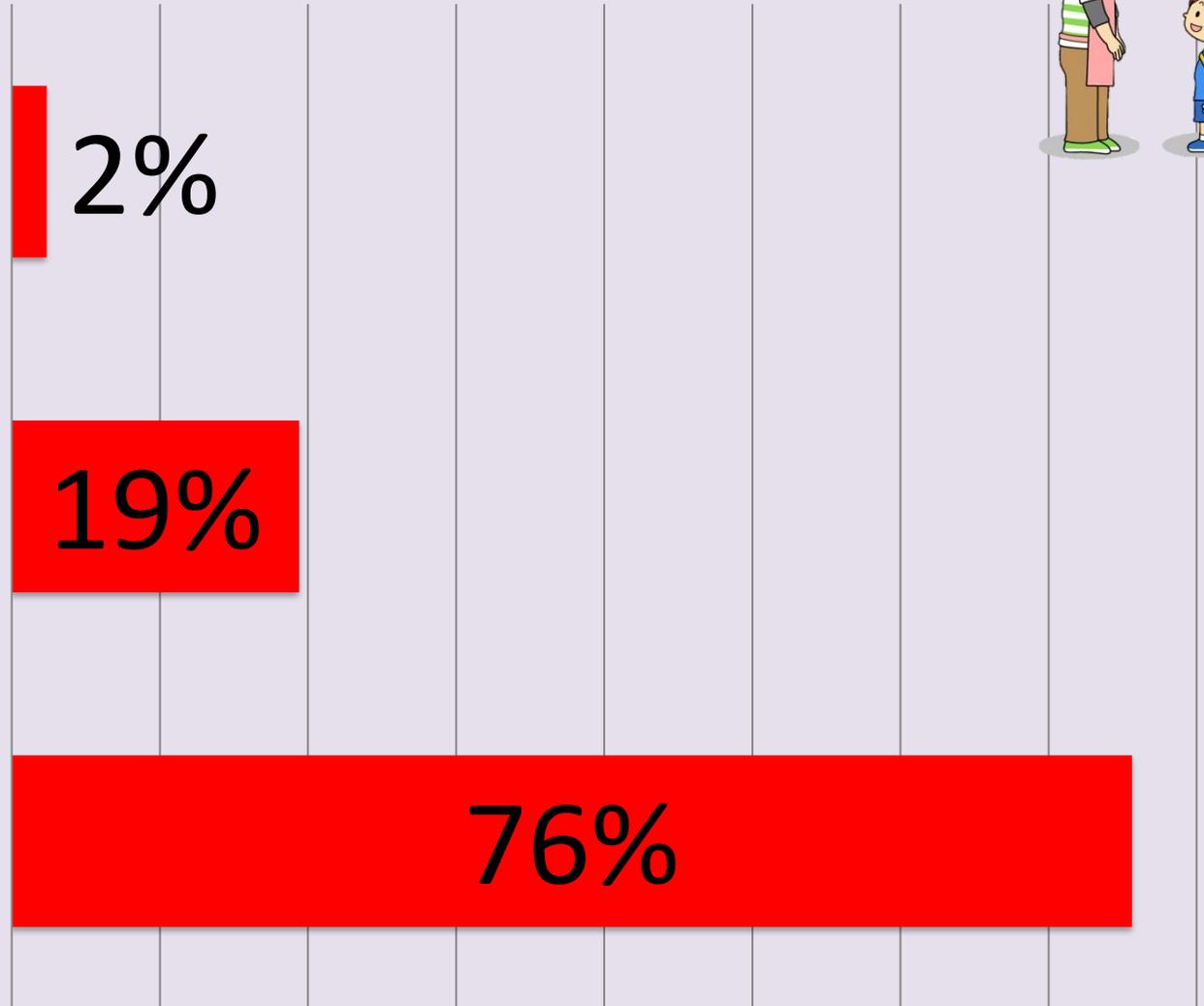
2%

2学年

19%

3学年

76%



【14-4】「幼児との触れ合い体験」 実施形態

生徒が幼稚園・保育園等を
訪問

60%

視聴覚教材やロールプレイ
ングなどを活用

25%

子育て支援センターや育児
サークル等の親子を招く

5%

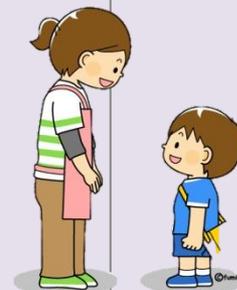
幼稚園、保育園等の幼児を
招く

3%

子育て支援センターや育児
サークル等の親子を訪問

1%

その他 4%



【14-5】「幼児との触れ合い体験」 実施回数

3年間に1回

65%

3年間に2回

7%

3年間に3回

2%

(空欄)

26%



【14-6】「幼児との触れ合い体験」 (直接体験)が困難な理由

生徒数が多い

9%

91%

引率教員を確保できない

6%

94%

近くに幼稚園、保育園等の施設
がない

5%

95%

幼稚園、保育園等の理解を得
ることが難しい

3%

97%

その他

7%

93%

(空欄)

70%

【14-7】「幼児との触れ合い体験」の成果

幼児への関心を深めることができた

41%

幼児との関わり方の工夫ができるようになった

27%

幼児の成長や発達について理解を深めることができた

22%

自分の成長と家族の役割について考えることができる…

10%

【14-8】Aの指導にあたっての課題 (2つ以内)

授業時数の不足

36%

適切な施設、設備、教具の不足

20%

生徒の生活経験の不足

18%

授業準備、教材研究等の時間の不足

15%

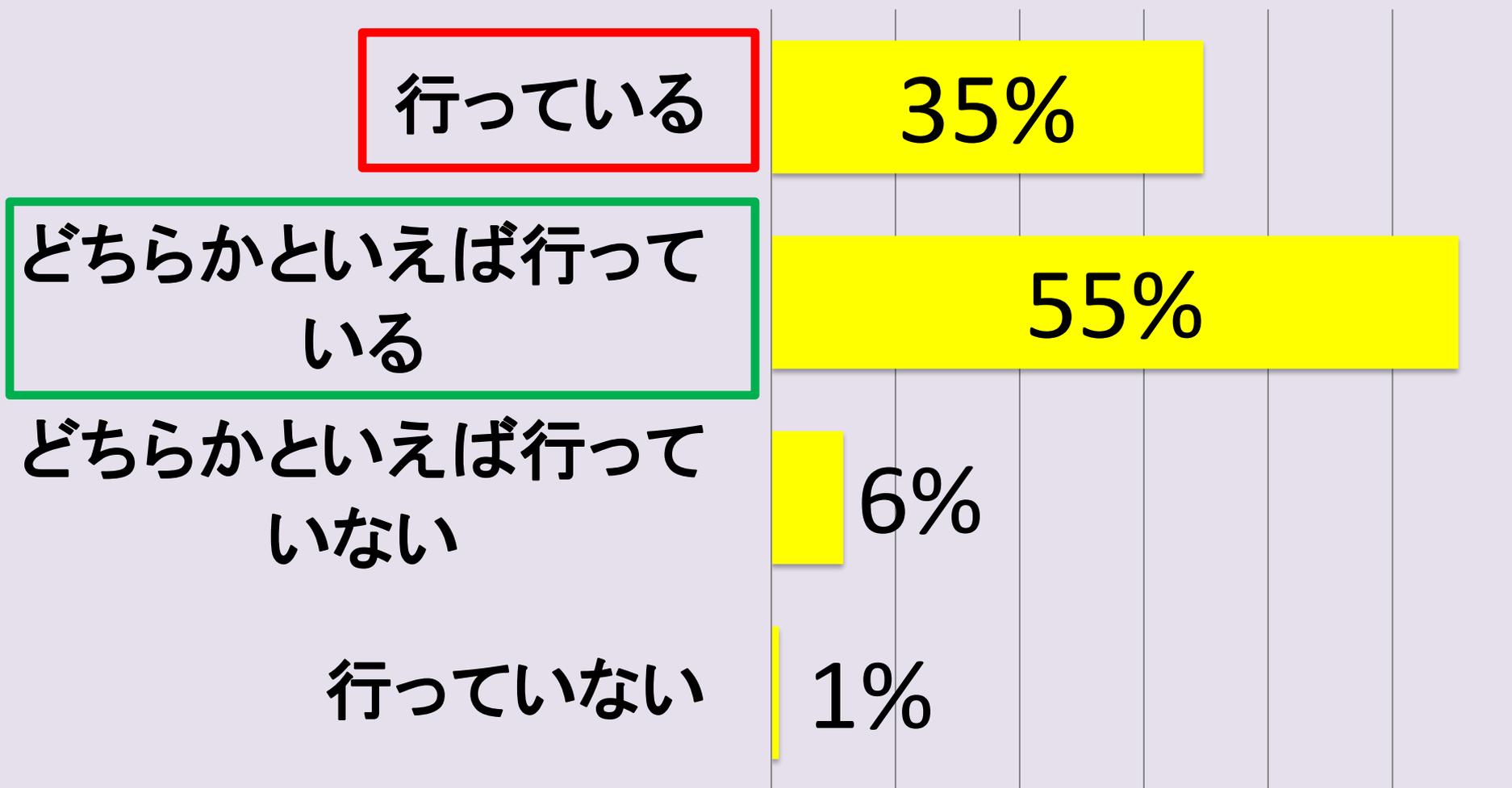
適切な題材や教具、指導資料の不足

14%

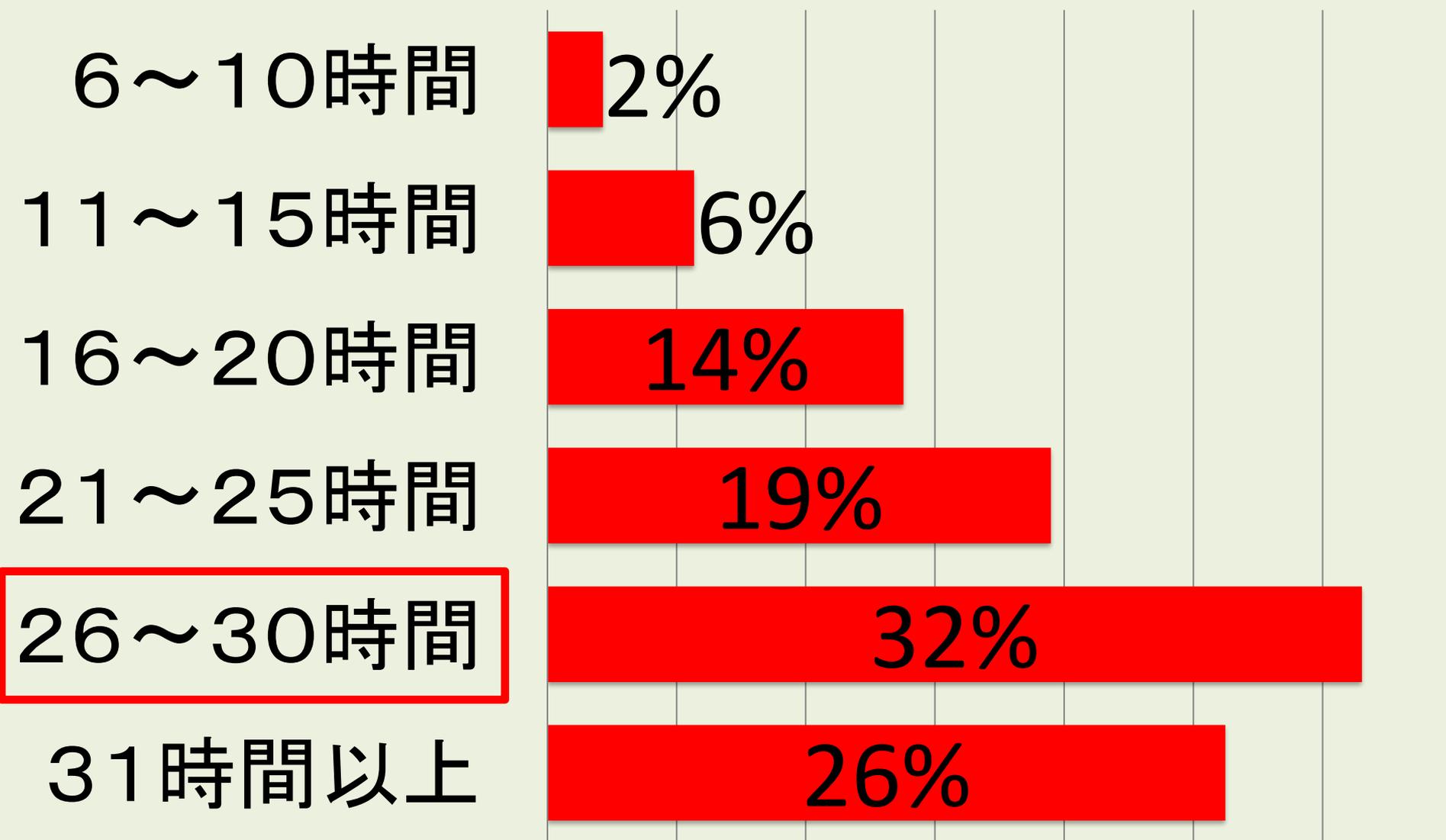
指導方法などに関する研修の不足

14%

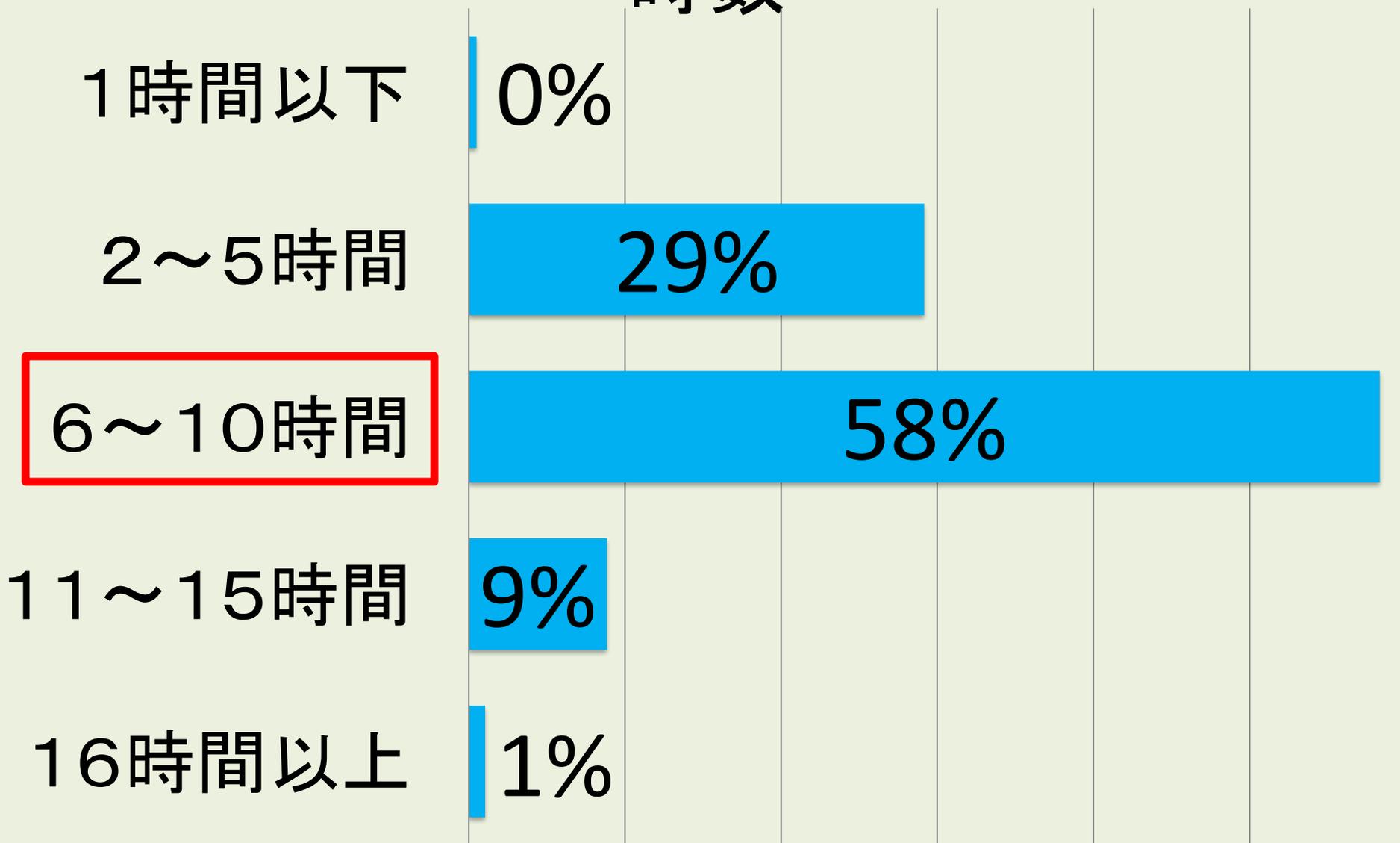
【14-10】A評価規準を定め、評価方法を
検討して、適切な学習評価を行っている
か



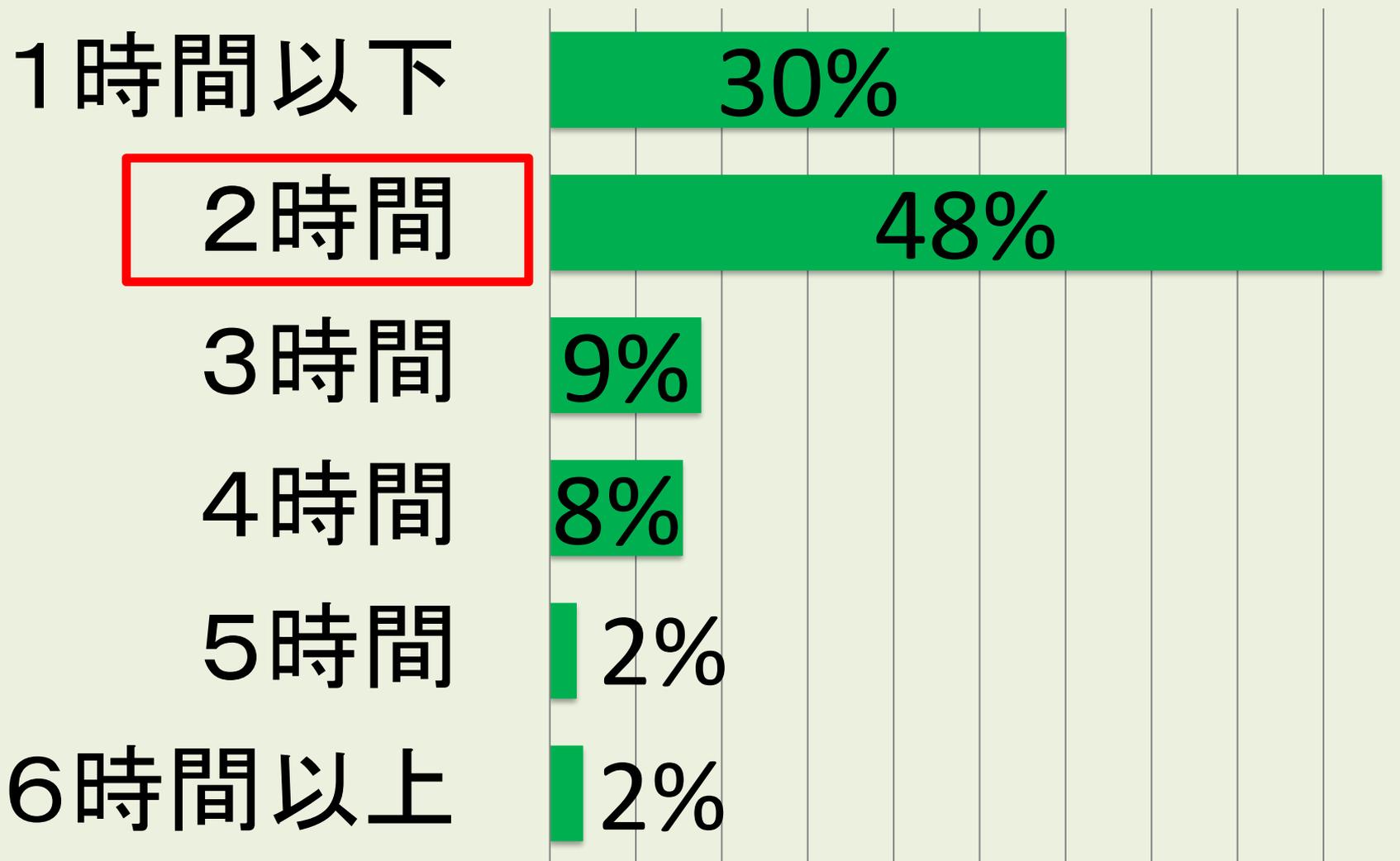
【15-1】B(食生活と自立)の指導時数



【15-2】Bのうち、「調理実習」にあてる 時数



【15-3】「地域の食文化」で調理実習にあてる時数



【15-4】地域の食文化について、どのように取り組んでいるか

地域の食材を扱った
調理実習

45%

郷土料理を扱った調
理実習

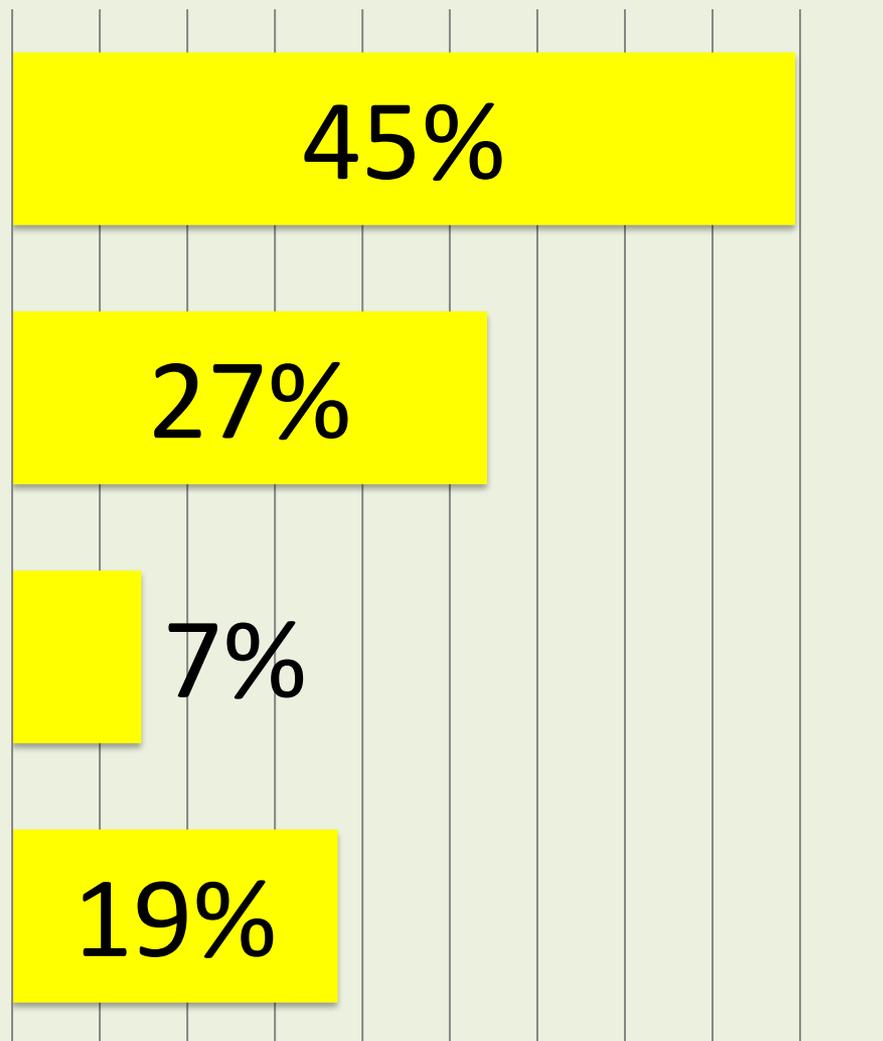
27%

行事食を扱った調理
実習

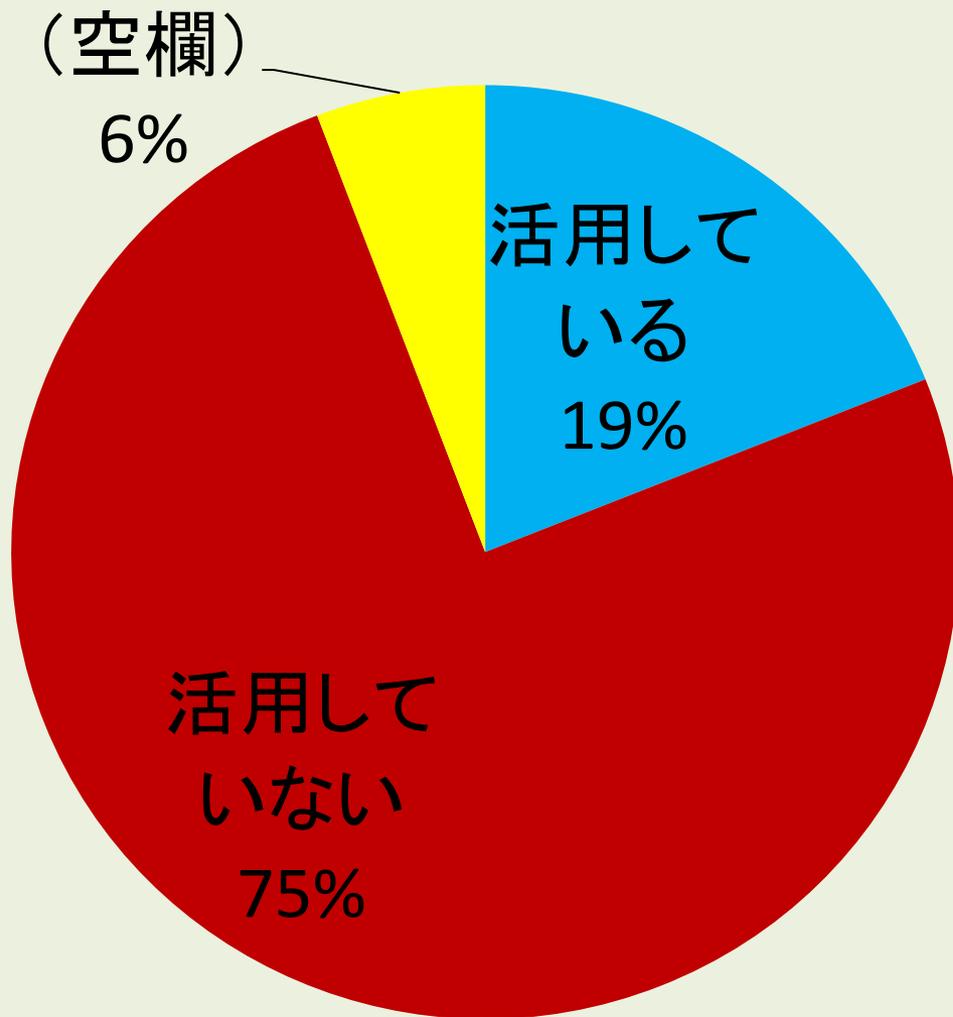
7%

その他

19%



【15-6】地域の食文化についての学習に、地域の人材を活用していますか。



【15-7】地域の食文化についての学習を通して、得られた成果（2つ以内）

自分の住む地域の食文化に関心をもつことができた。

40%

地域の食材や郷土料理、行事食などについて知ることができた。

39%

地域の食材を生かした調理を工夫することができた。

15%

地域の人々と交流することができた。

7%

【15-8】Bの指導にあたっての課題 (2つ以内)

生徒の生活経験の不足

21%

授業時数の不足

19%

授業準備、教材研究等の時間の不足

16%

適切な施設、設備、教具の不足

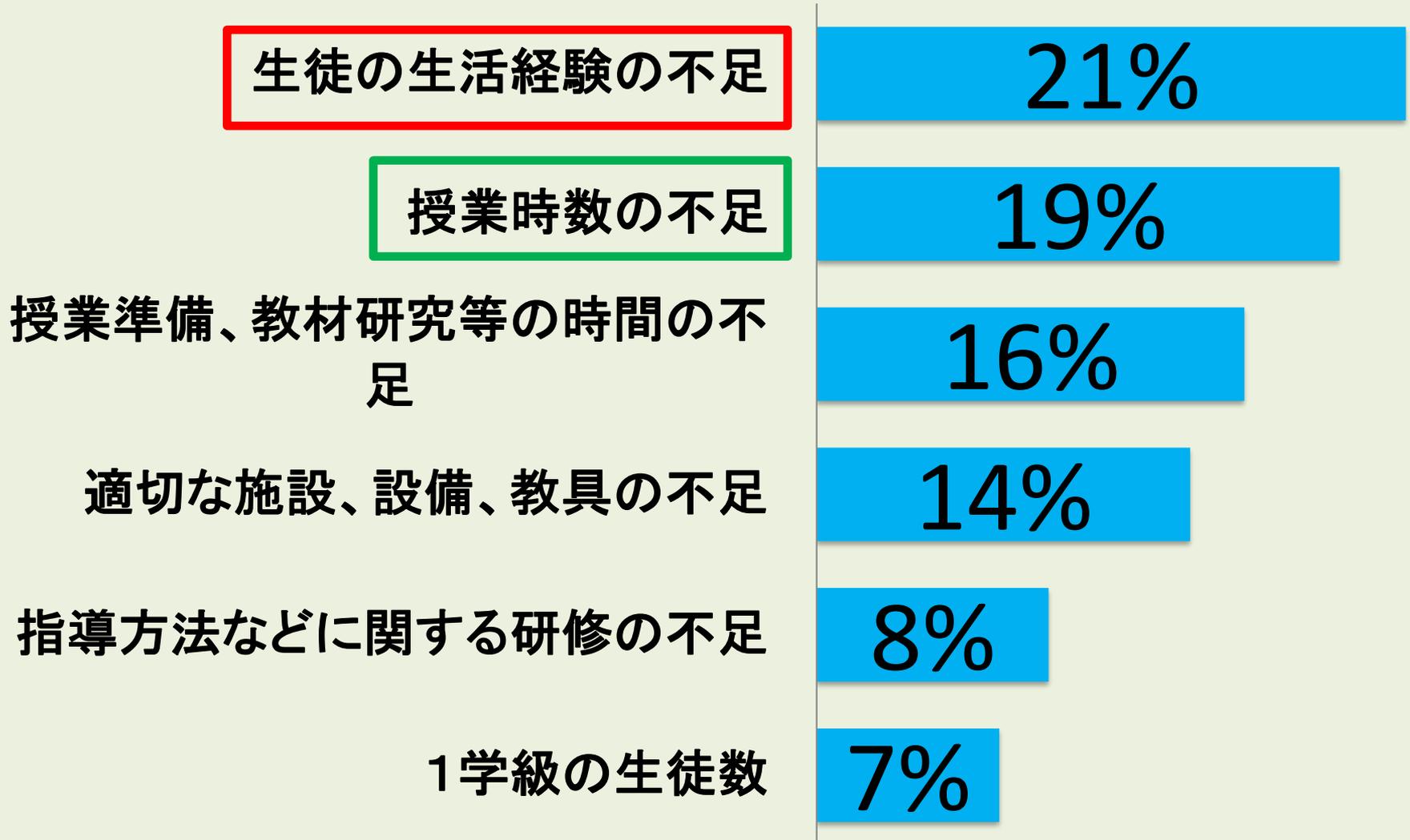
14%

指導方法などに関する研修の不足

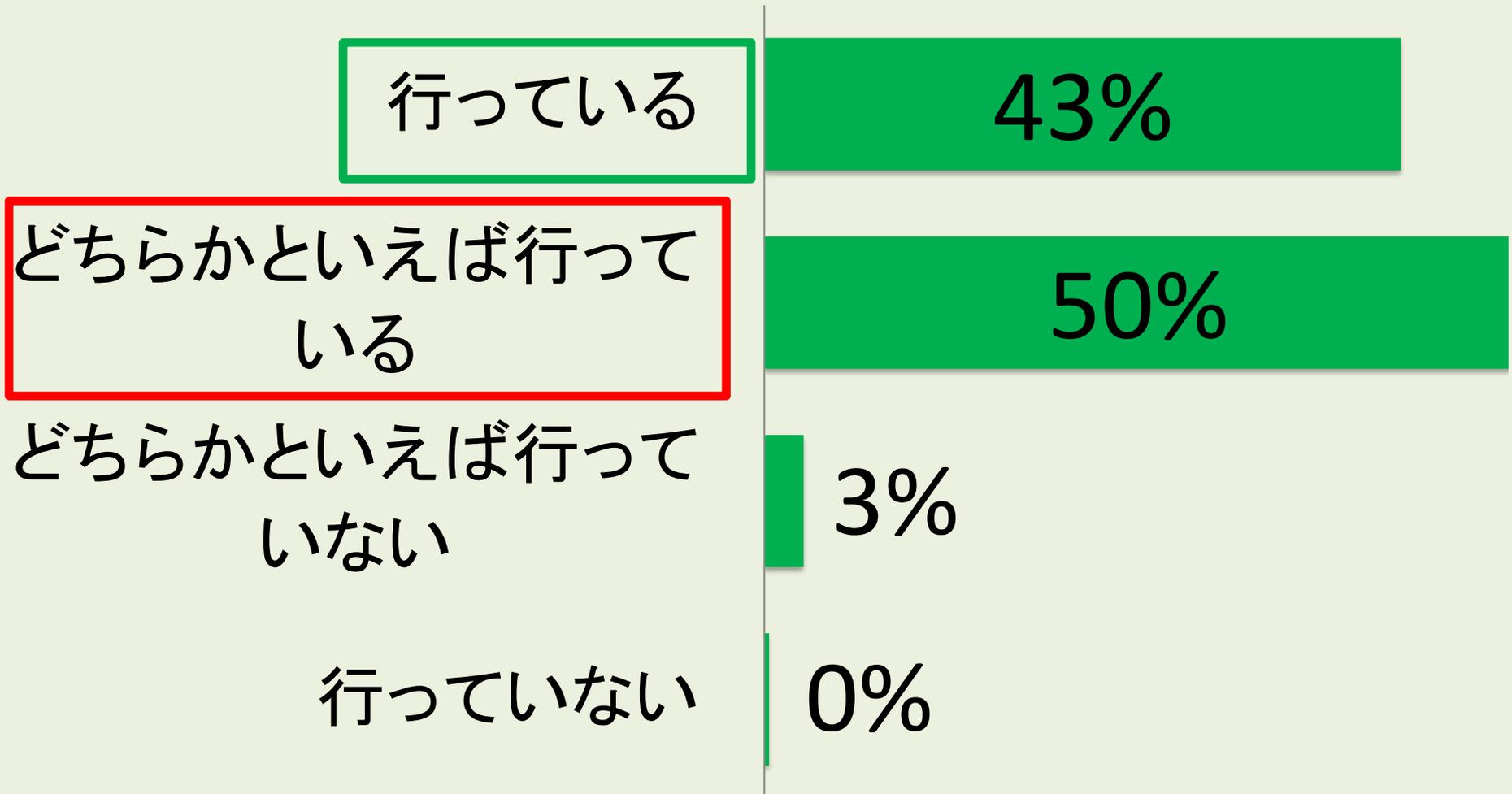
8%

1学級の生徒数

7%



【15-10】Bについて、評価規準を定め、 評価方法を検討して、適切な学習評 価を行っているか



【16-1】C(衣生活・住生活と自立)の 指導時数

6～10時間

4%

11～15時間

12%

16～20時間

22%

21～25時間

27%

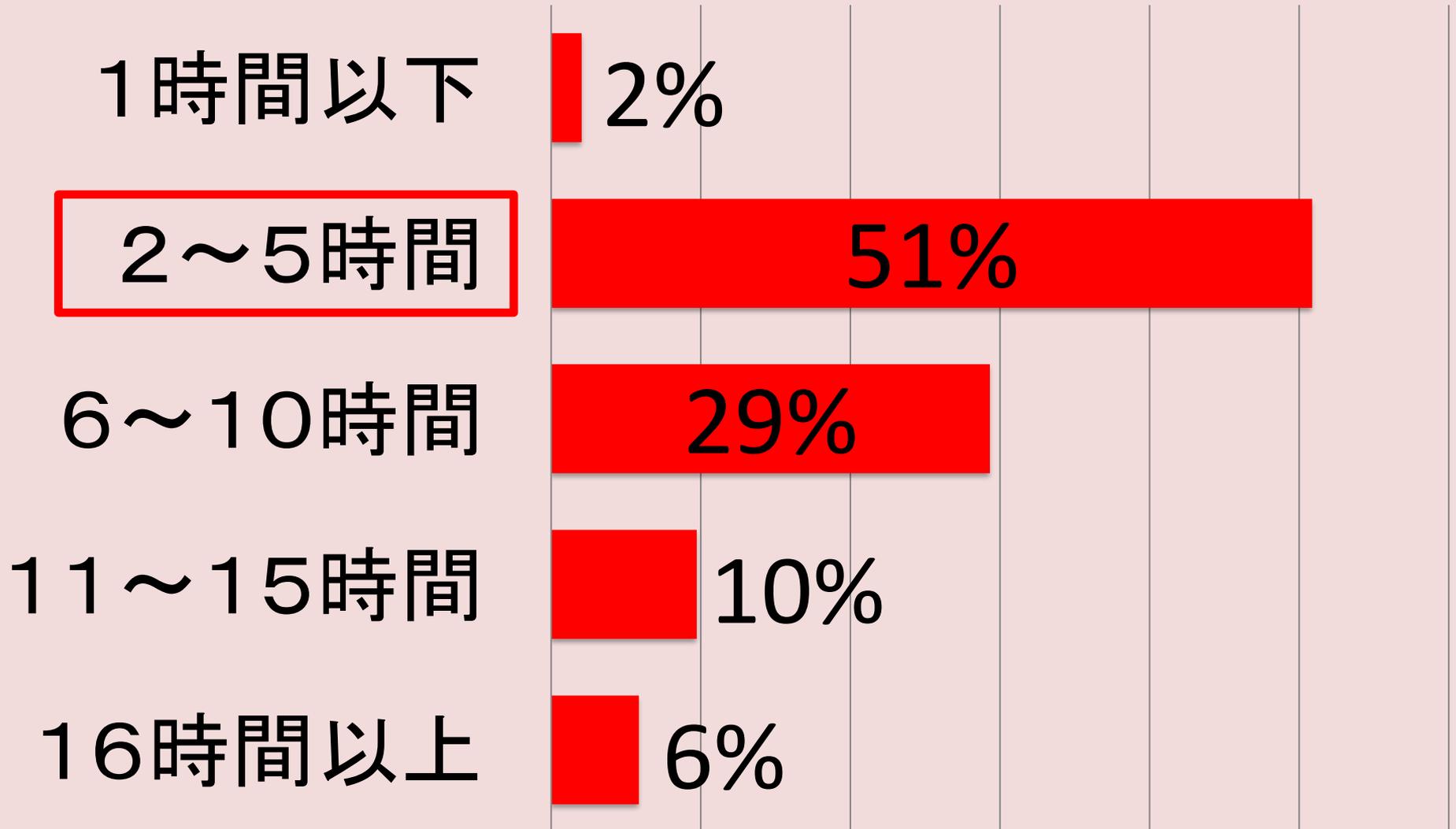
26～30時間

21%

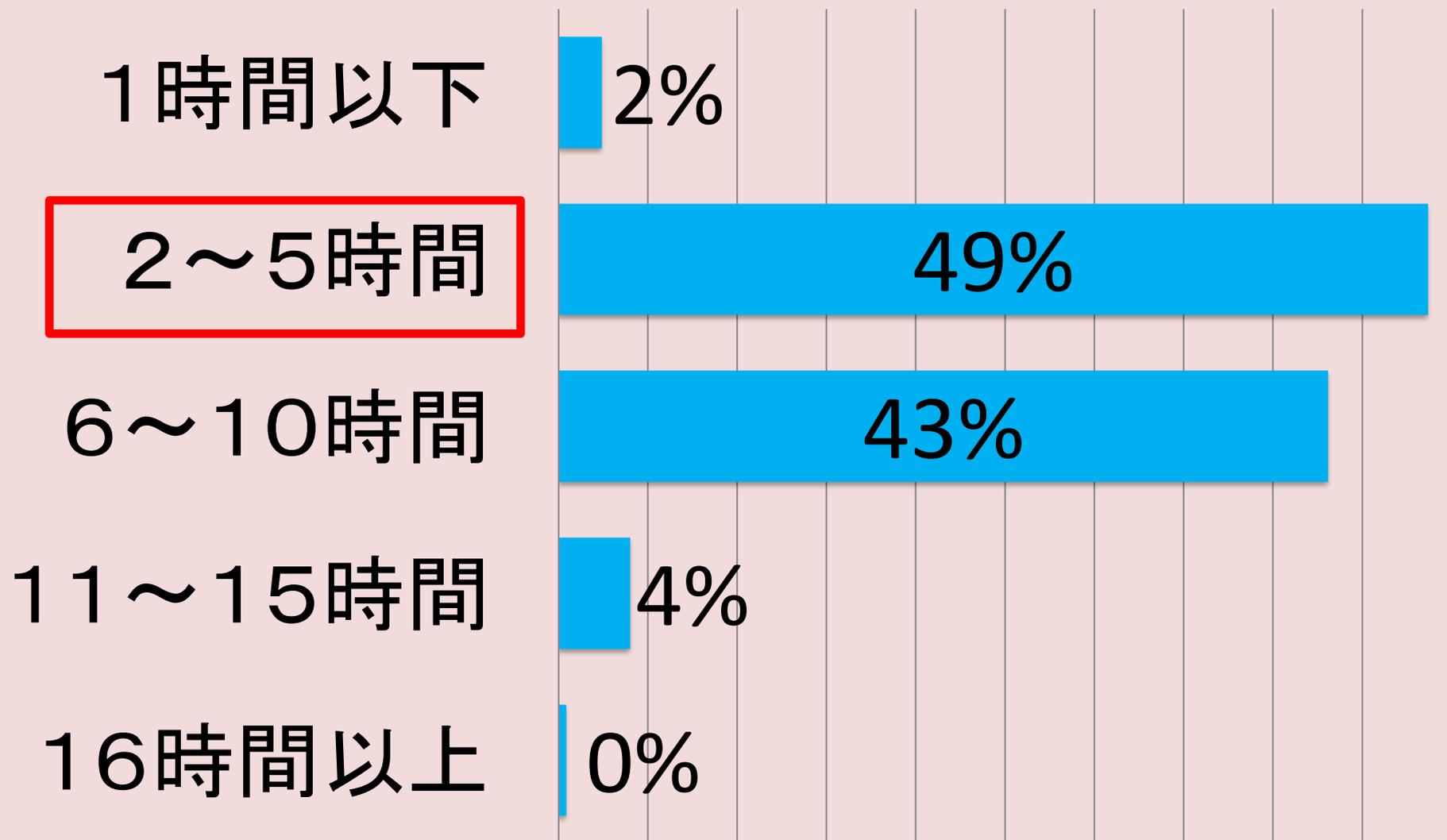
31時間以上

12%

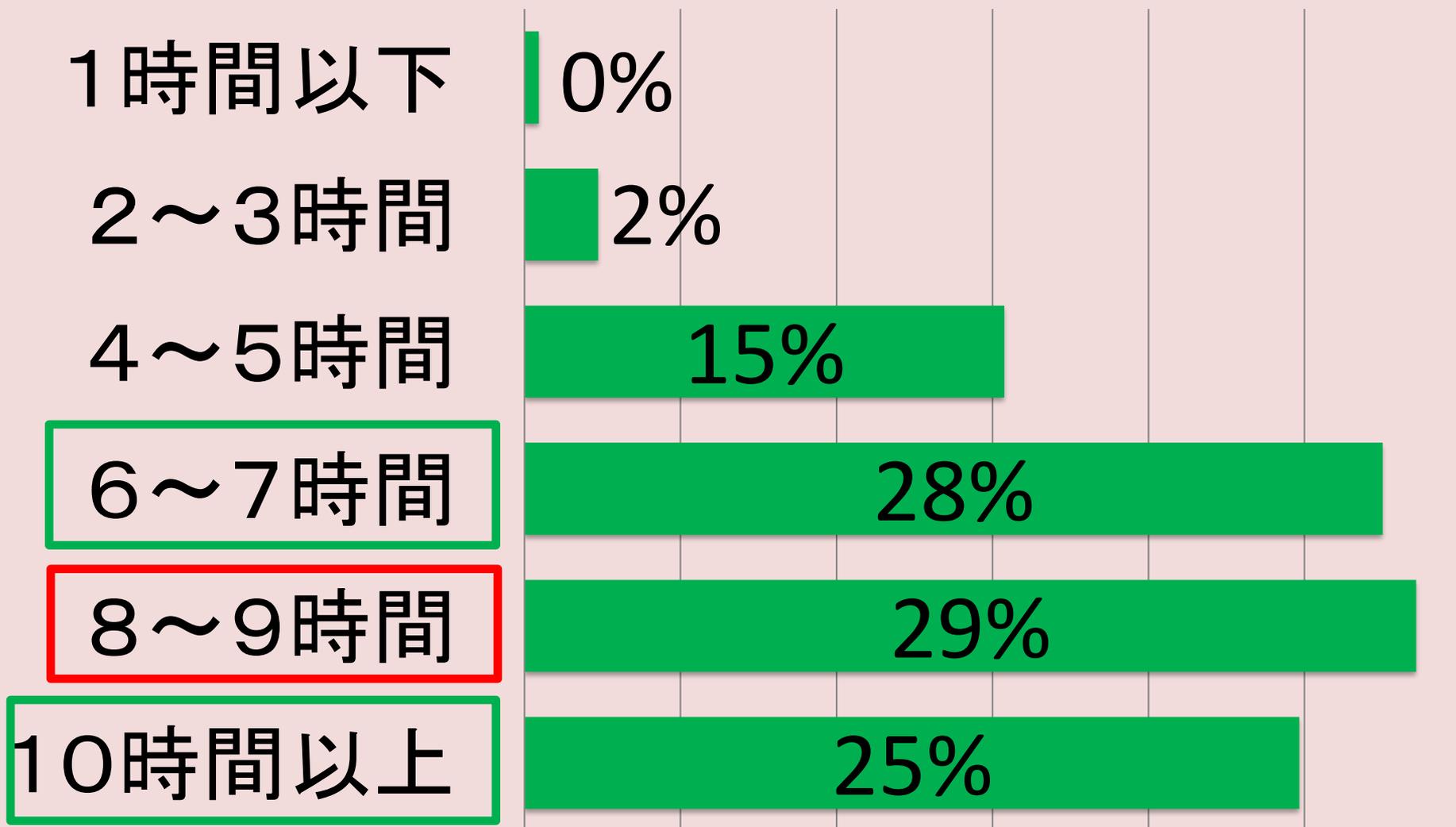
【16-2】(1)「衣服の選択と手入れ」にあて てる時数



【16-3】(2)「住居の機能と住まい方」にあてるとの数



【16-4】「布を用いた物の製作」にあて る時数



【16-5】布を用いた物の製作を通して、 得られた成果

補修やミシンの調整の仕方などの
基礎的・基本的な知識と技能
を身につけることができた。

64%

布を用いた物の製作に関心をも
つことができた。

26%

衣生活・住生活を豊かにするた
めに必要な物を考え、計画を工
夫することができた。

5%

自分や家族の生活を豊かにする
ことに大切さを実感できた。

4%

【16-6】Cの指導にあたっての課題 (2つ以内)

授業時数の不足

21%

適切な施設、設備、教具の不足

17%

生徒の生活経験の不足

17%

授業準備、教材研究等の時間の不足

10%

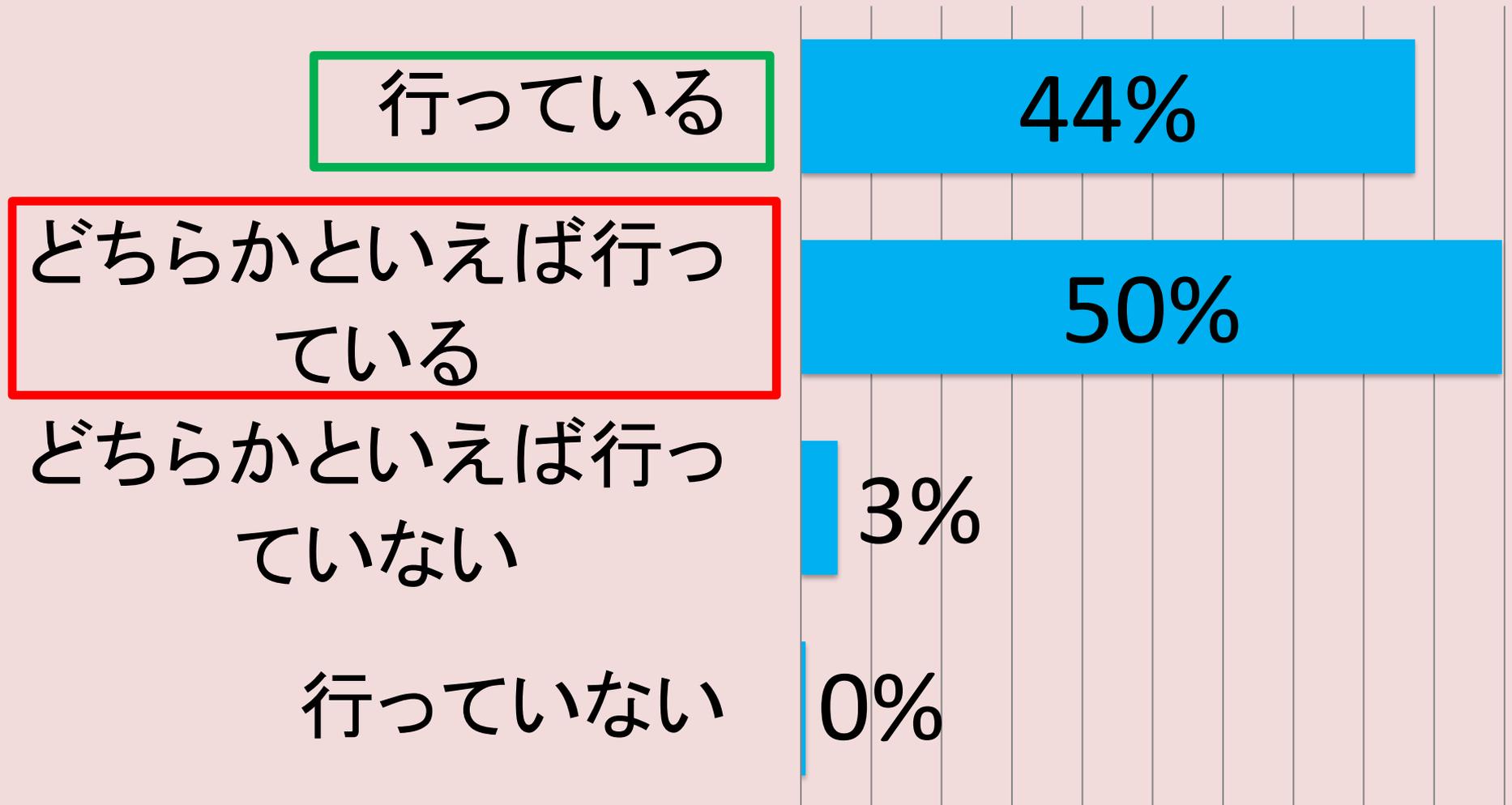
適切な題材や教具、指導資料の不足

9%

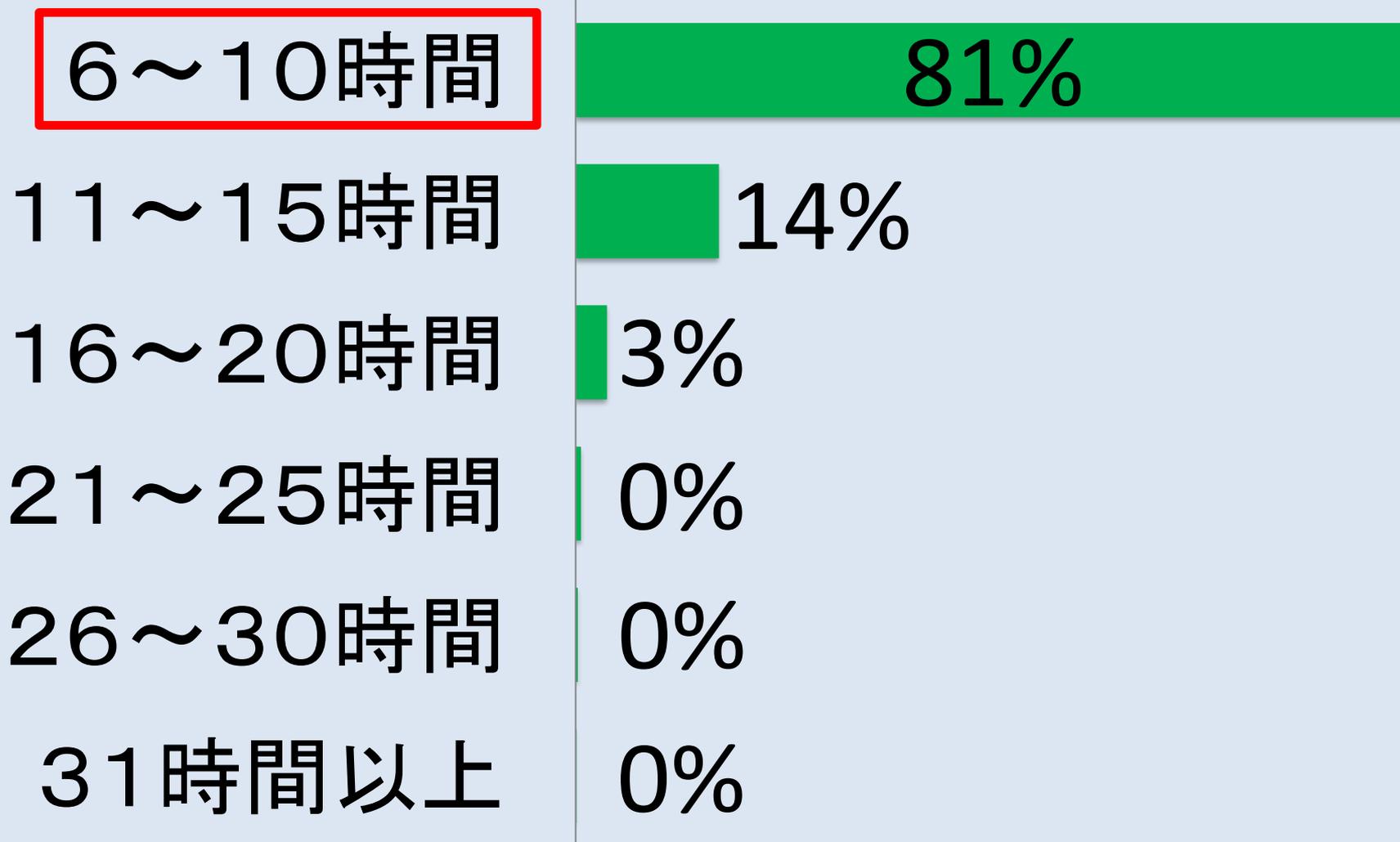
小学校の学習における知識・技能の不足

9%

【16-8】Cについて、評価規準を定め、 評価方法を検討して、適切な学習評 価を行っているか



【17-1】D(身近な消費生活と環境)の 指導時数



【17-2】(1)「家庭生活と消費」で、「消費者の基本的な権利と責任」にあてる時数

1時間以下

30%

2時間

41%

3時間

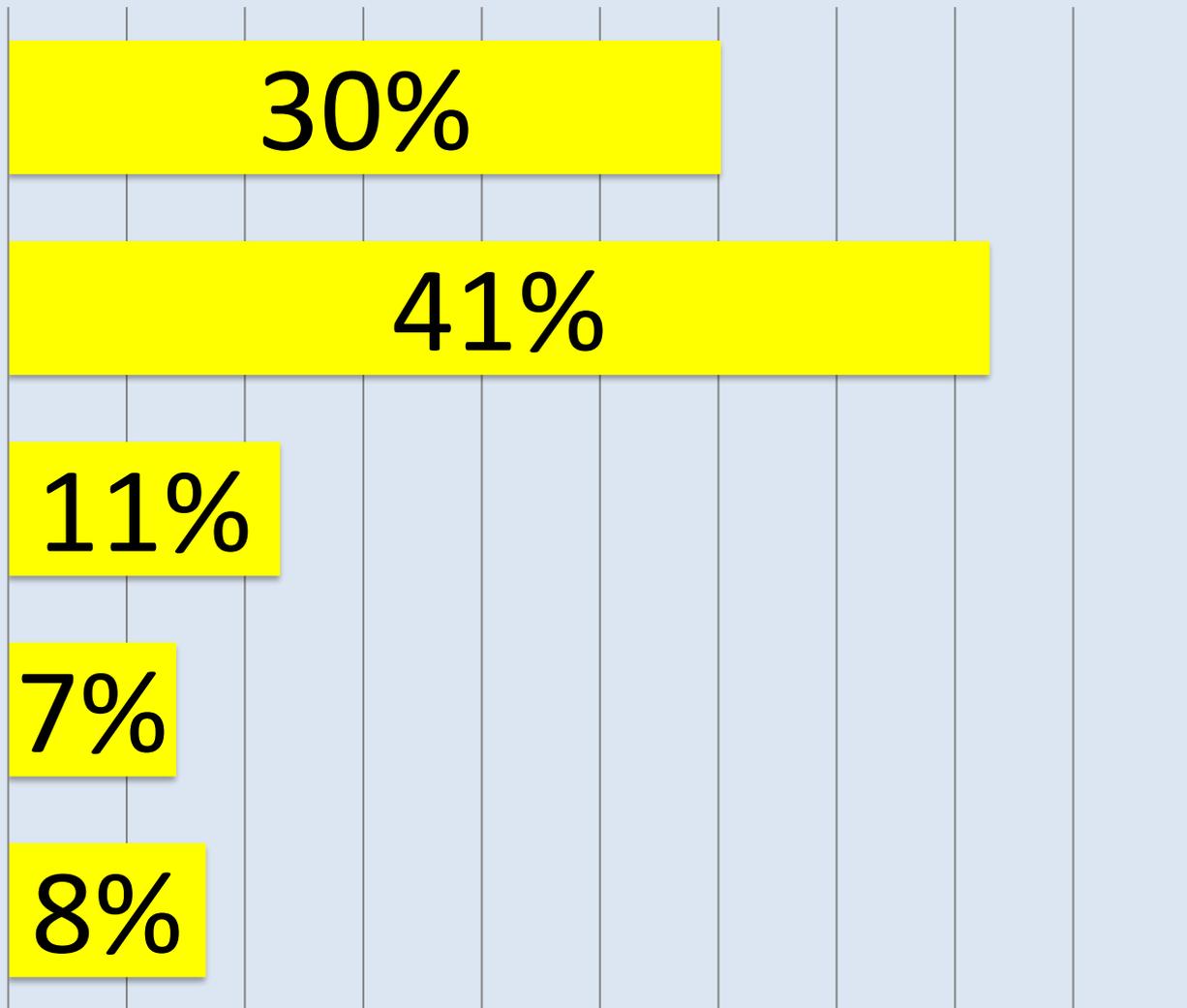
11%

4時間

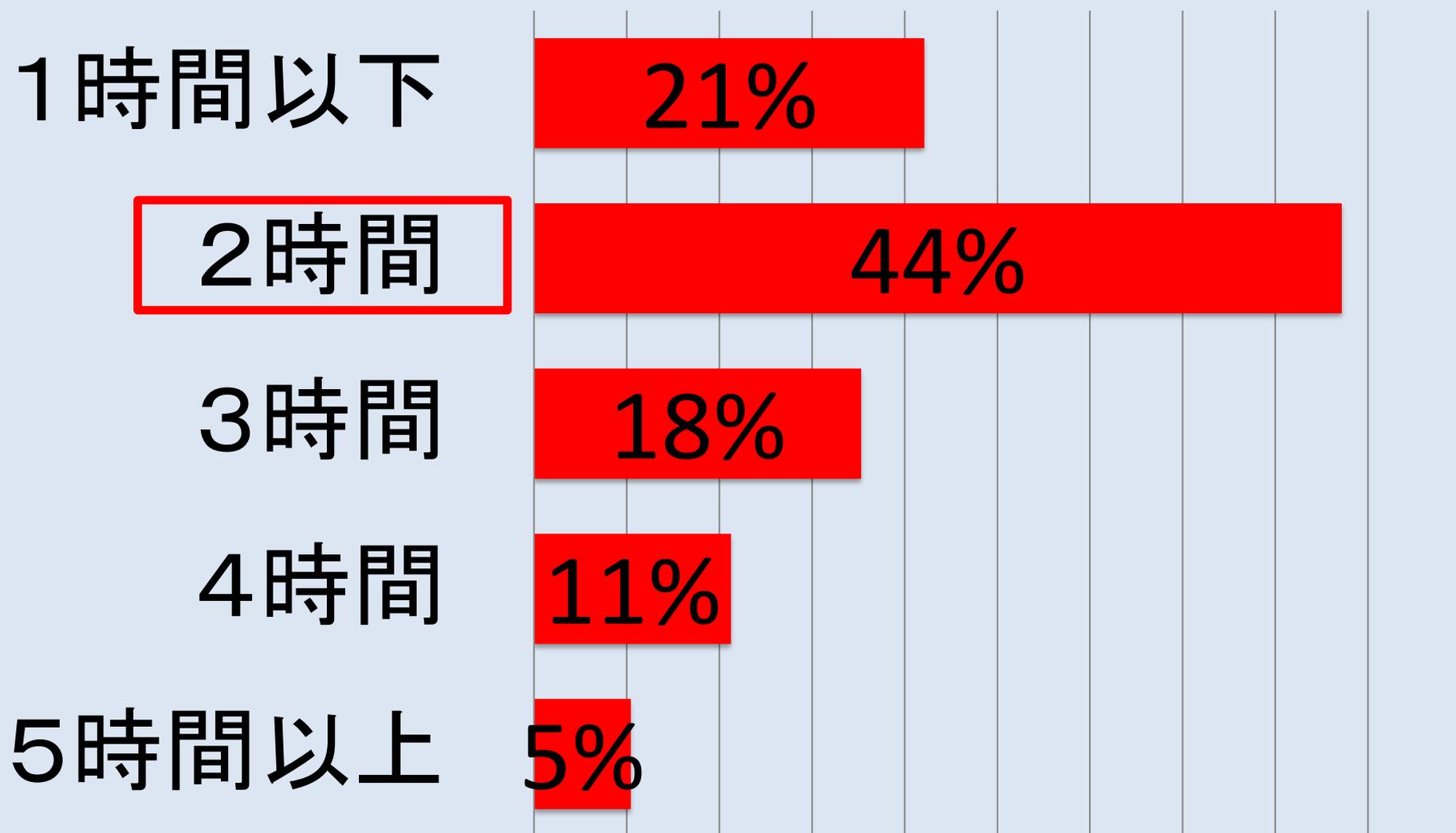
7%

5時間以上

8%



【17-3】(2)「家庭生活と環境」にあてる 時数



【17-4】家庭生活と消費についての学習を通して、得られた成果

中学生に関わる消費者問題等に関心をもつことができた。

43%

物資・サービスを選択、購入する際に情報を収集し、多様な視点から考えるようになった。

23%

消費者の基本的な権利と責任について理解し、消費者としての自覚が高まった。

17%

自分や家族の生活の仕方を見直し、環境に配慮した消費生活を送ろうとする意欲をもつことができ…

15%

【17-5】Dの指導にあたっての課題 (2つ以内)

小学校の学習における知識・技能の不足

20%

授業準備、教材研究等の時間の不足

20%

授業時数の不足

19%

適切な題材や教具、指導資料の不足

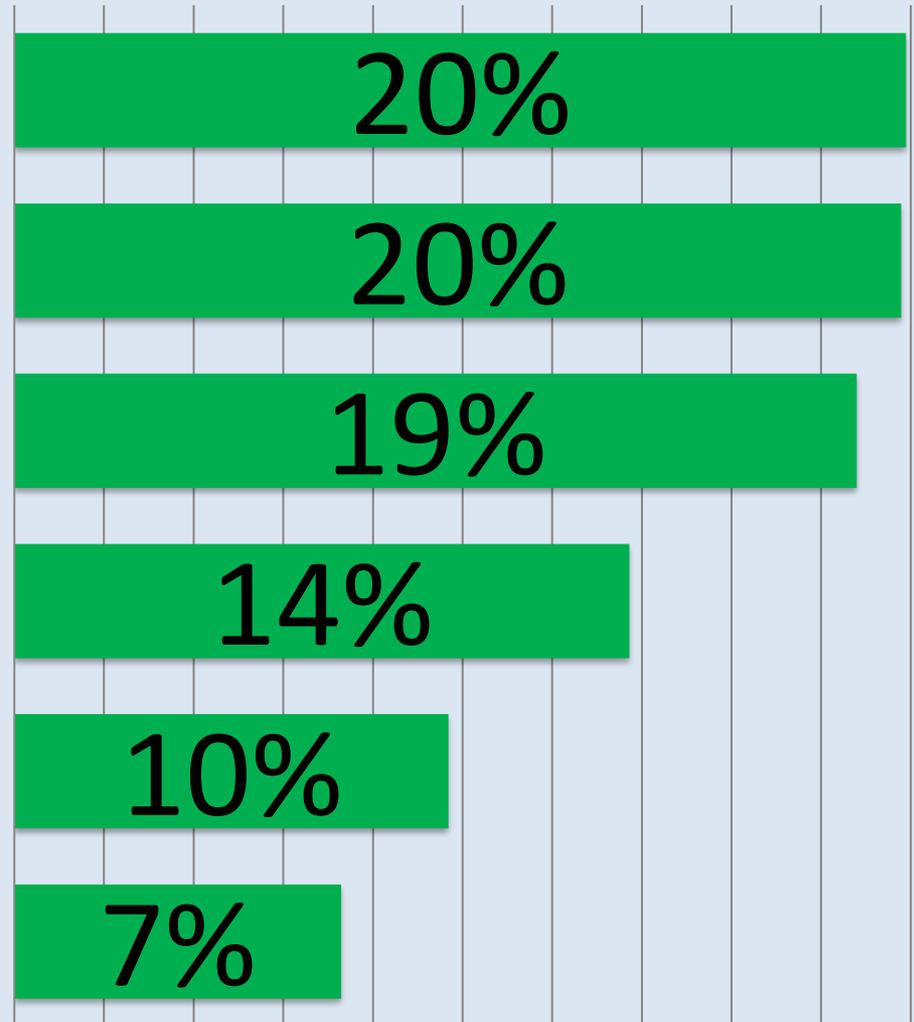
14%

1学級の生徒数

10%

指導方法などに関する研修の不足

7%



【17-7】Dについて、評価規準を定め、
評価方法を検討して、適切な学習評
価を行っているか

行っている

33%

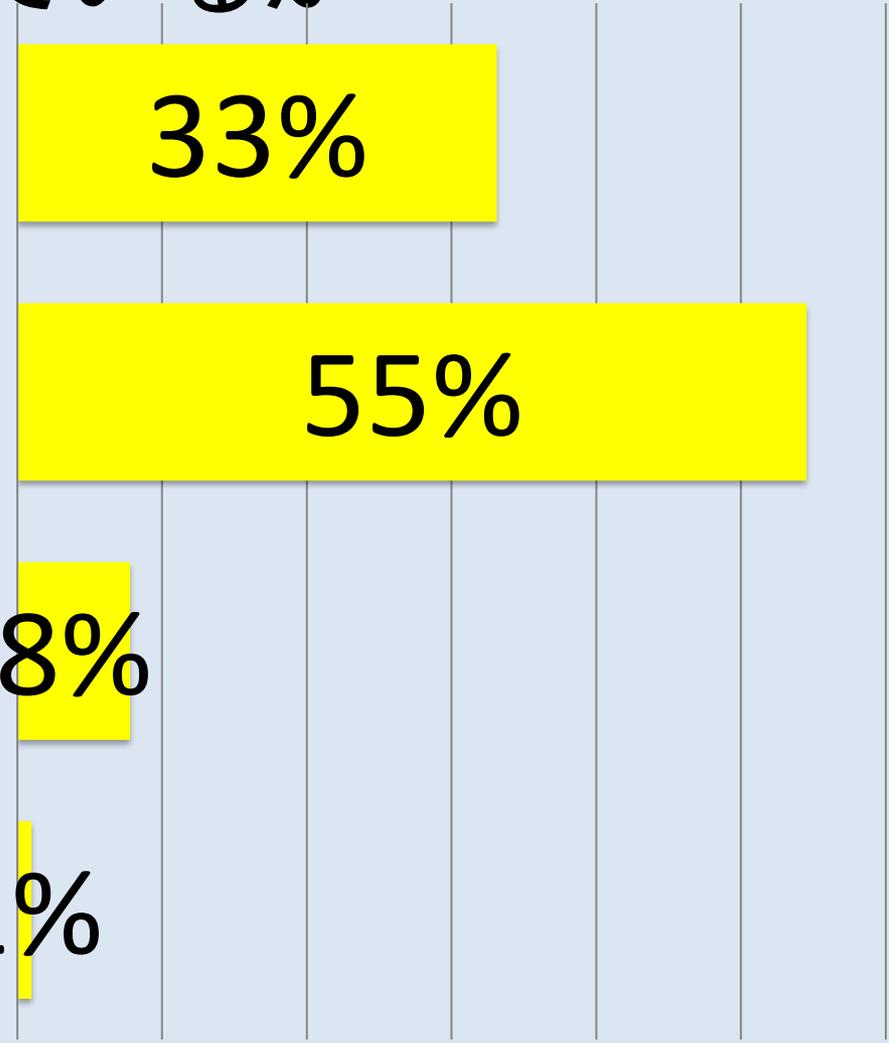
どちらかといえば行っ
ている

55%

どちらかといえば行っ
ていない

8%

行っていない 1%



【18-1】「生活の課題と実践」の指導は、
どの学年で取り組んでいますか。

第1学年

16%

第2学年

20%

第3学年

12%

第1と2学年

19%

第1と3学年

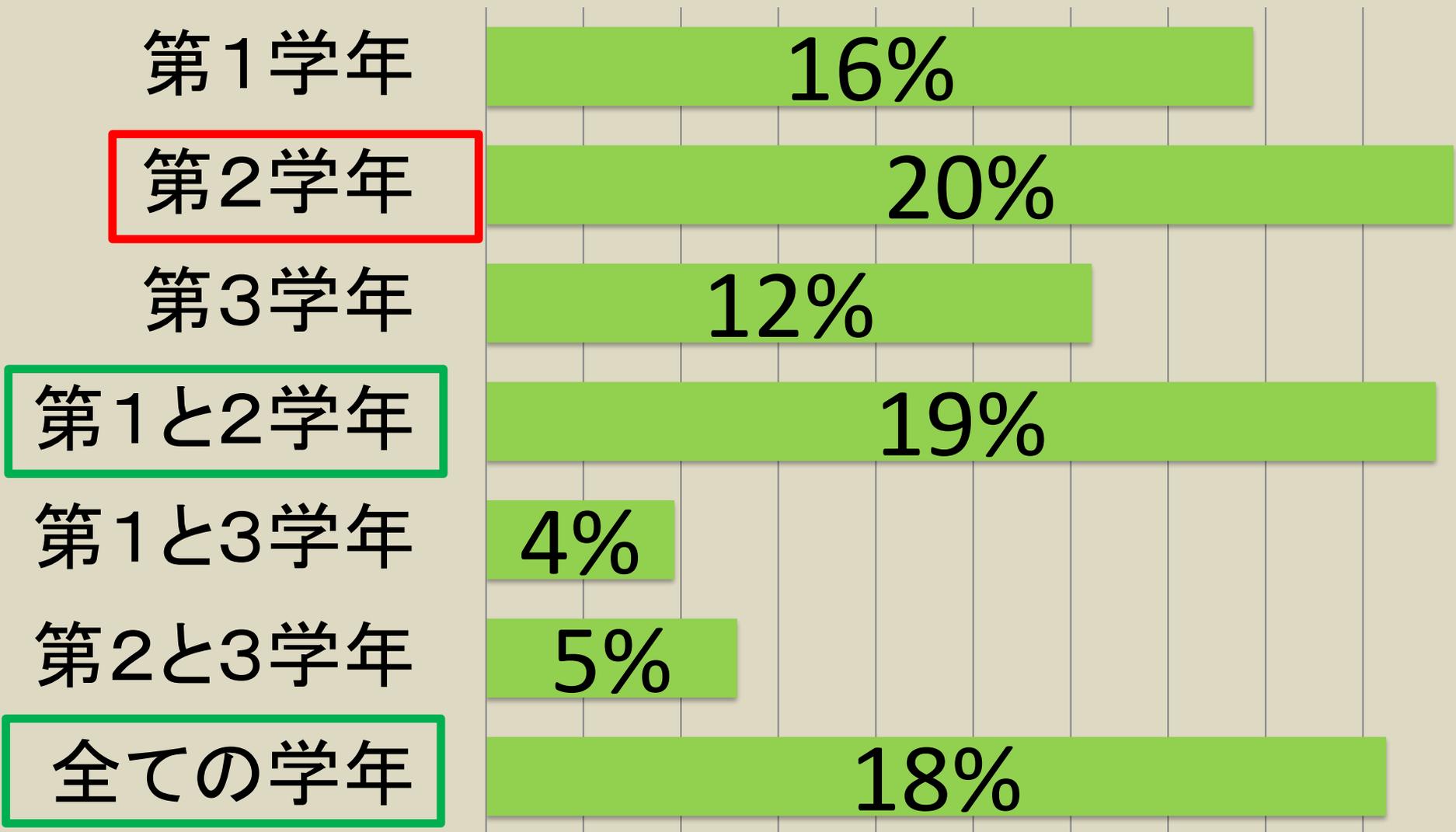
4%

第2と3学年

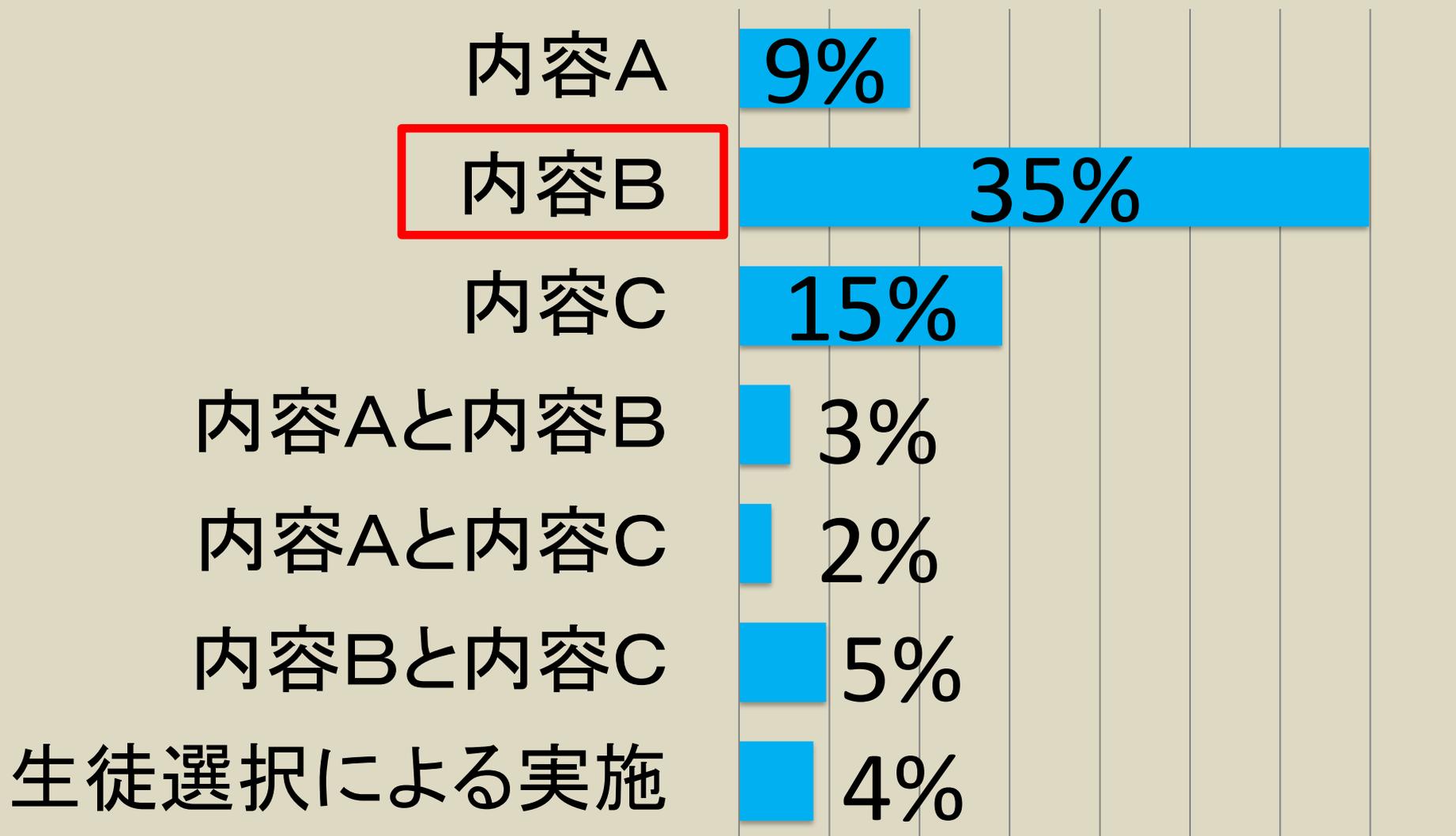
5%

全ての学年

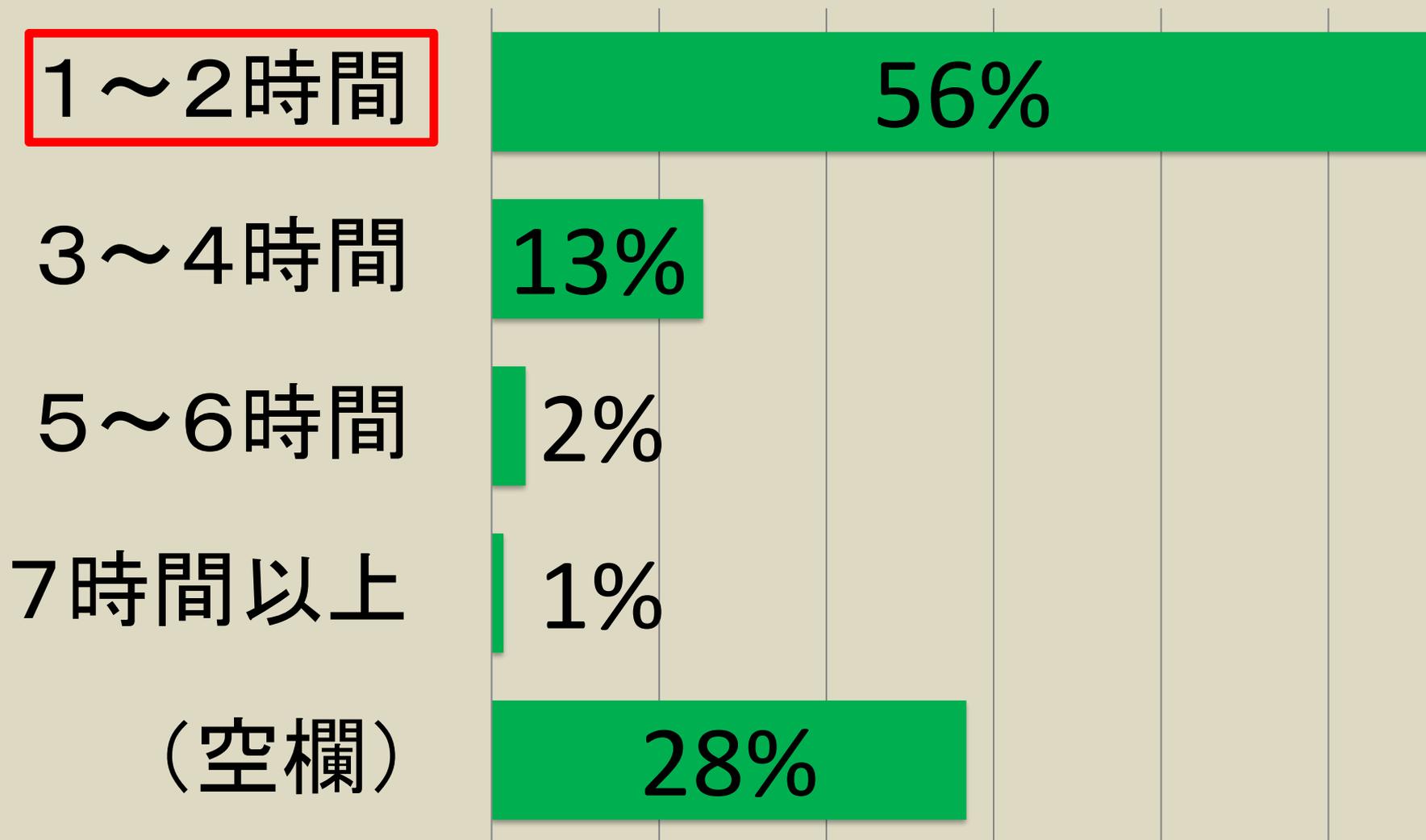
18%



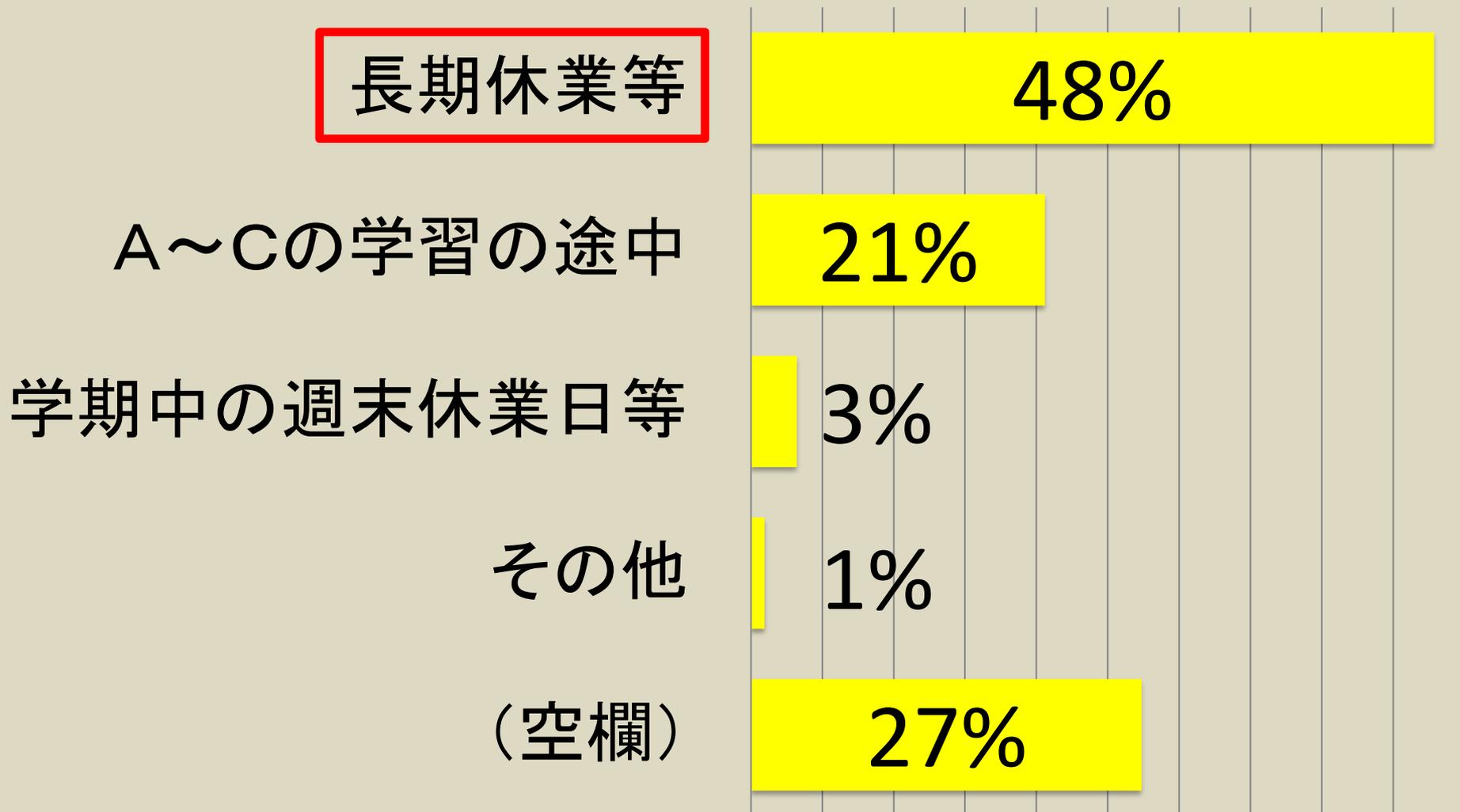
【18-2】「生活の課題と実践」はどの内容で実施しているか（1年生）



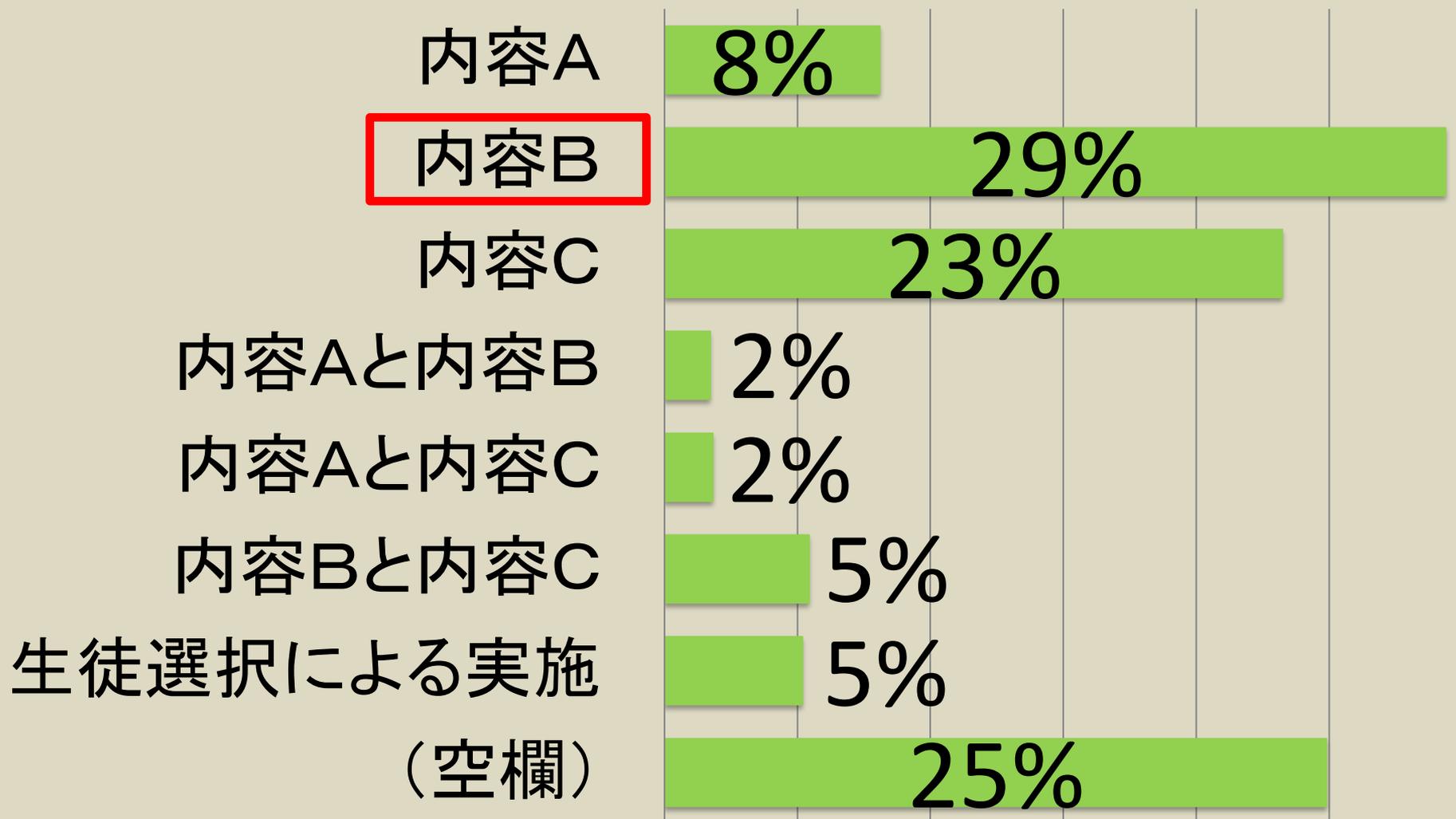
【18-3】「生活の課題と実践」の指導時数(家庭での実践時間は除く) 1年生



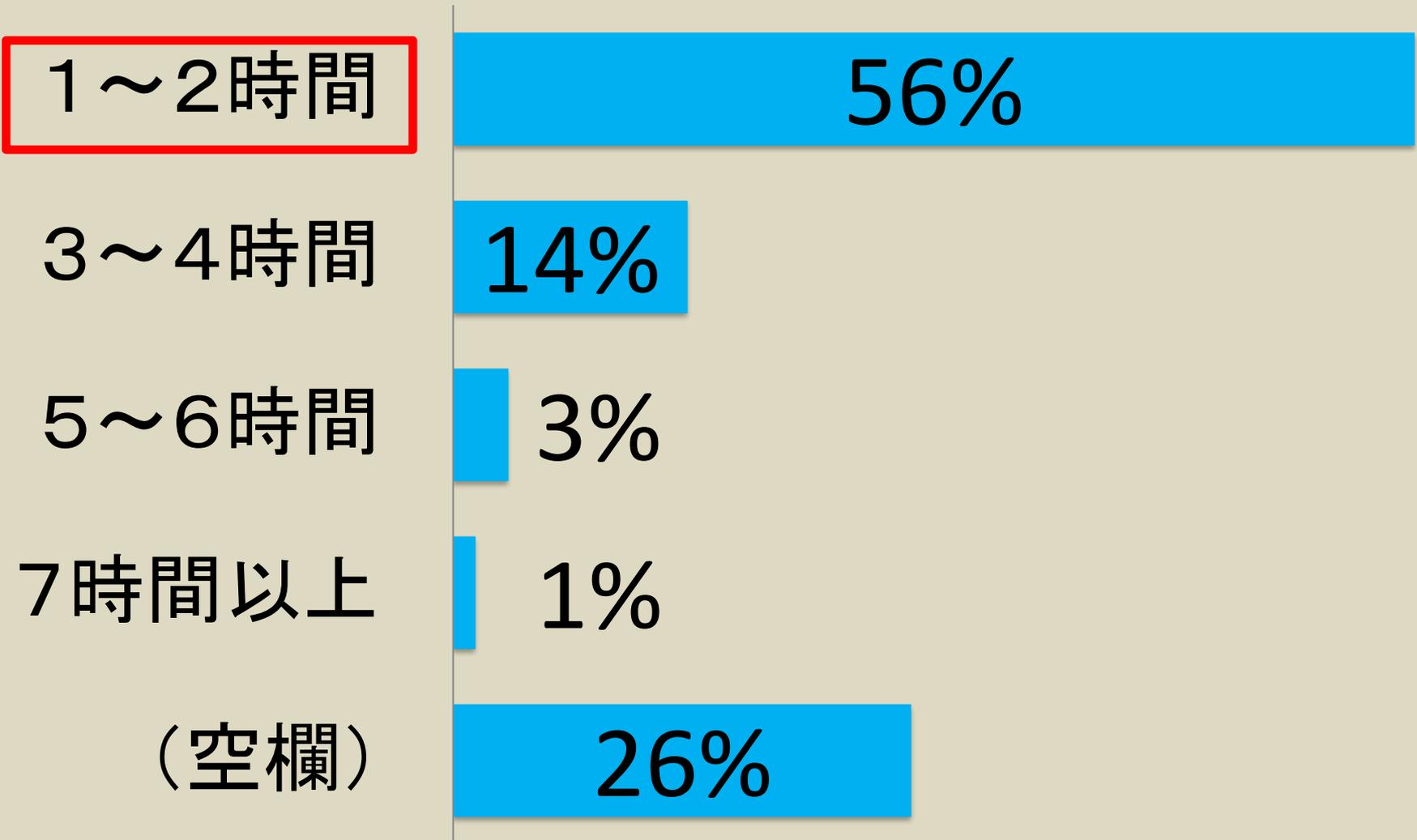
【18-4】「生活の課題と実践」の家庭での実践に取り組む時期（1年生）



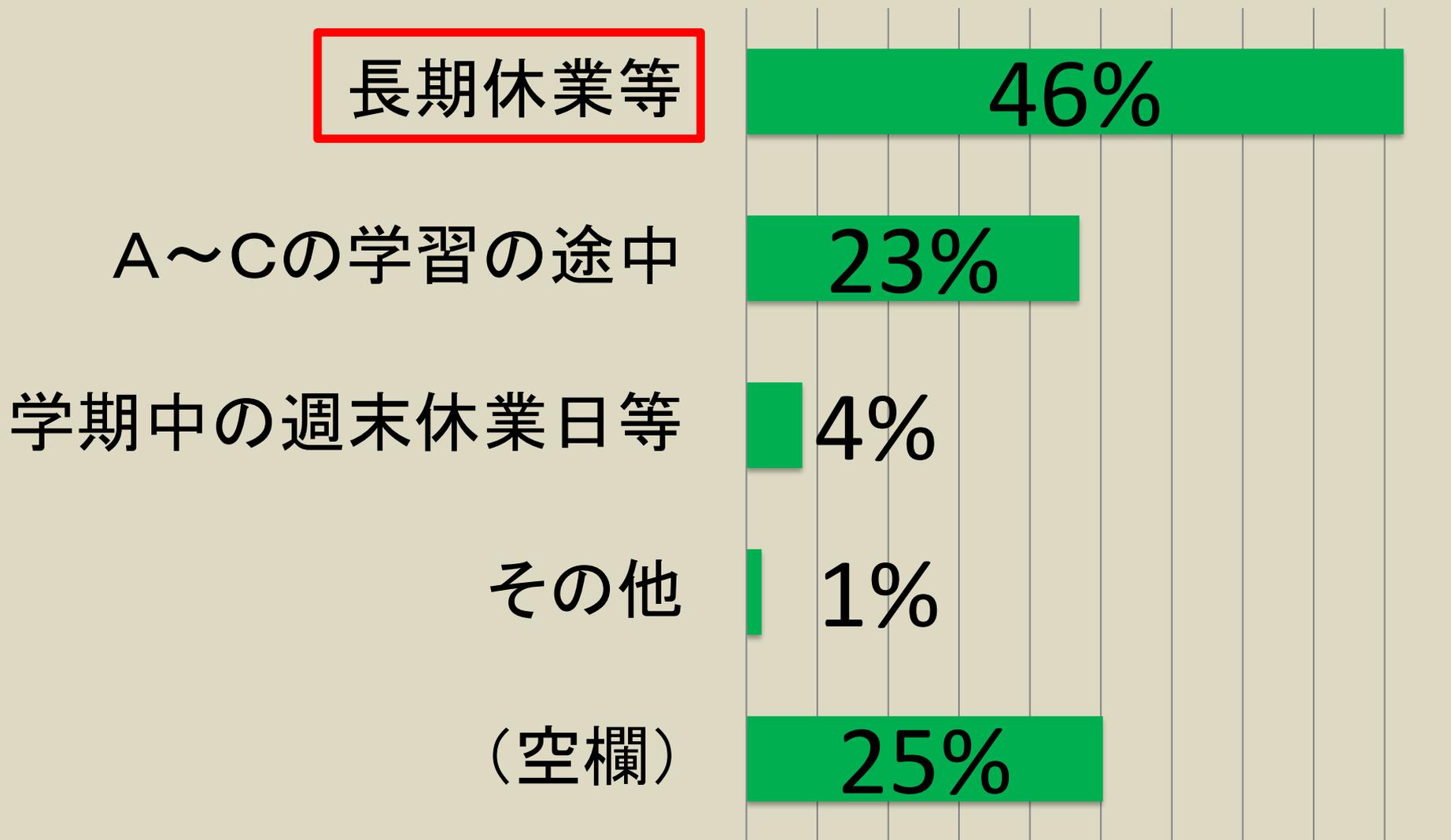
【18-6】「生活の課題と実践」をどの内容で実施しているか(2年生)



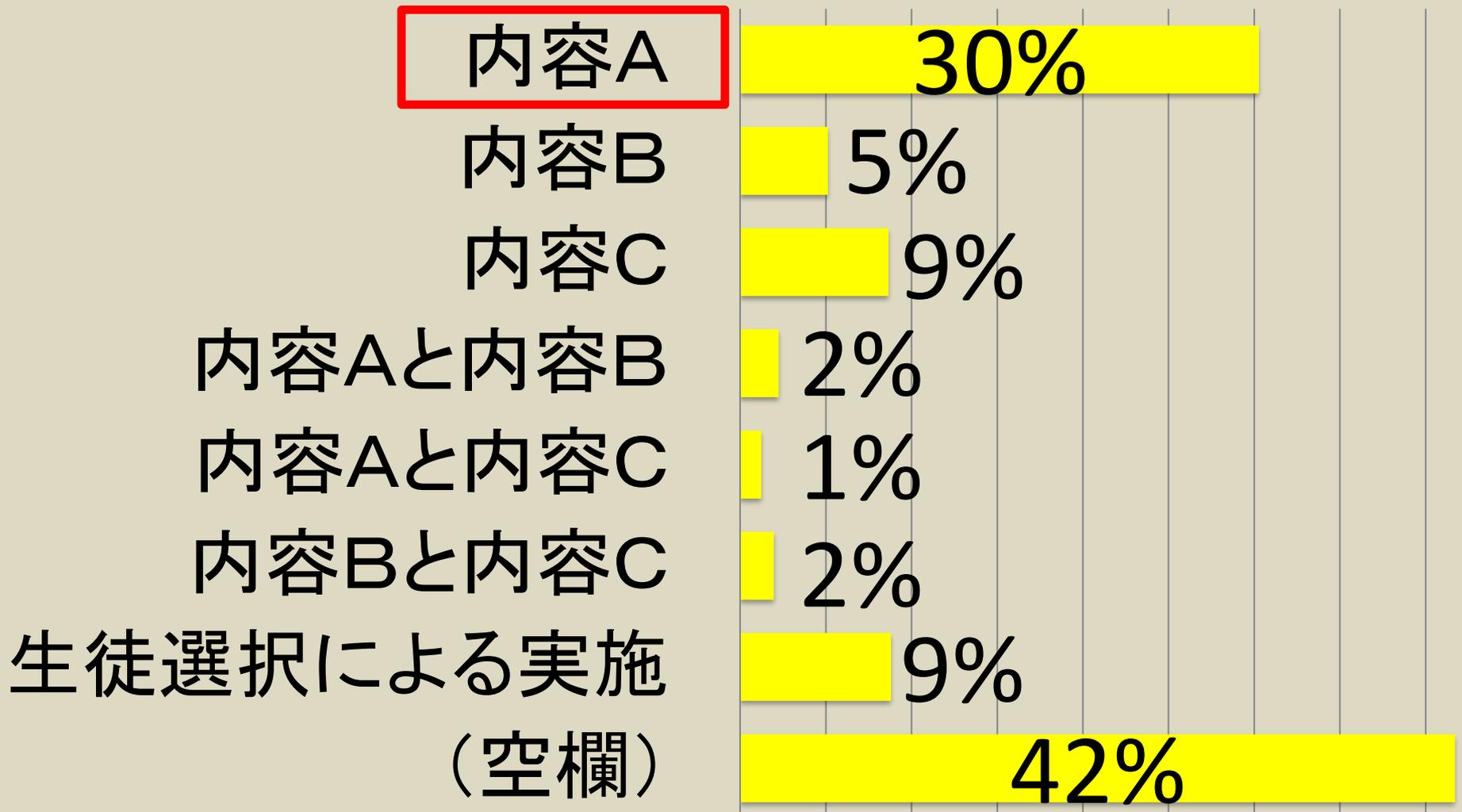
【18-7】「生活の課題と実践」の指導時数(家庭での実践時間を除く) (2年生)



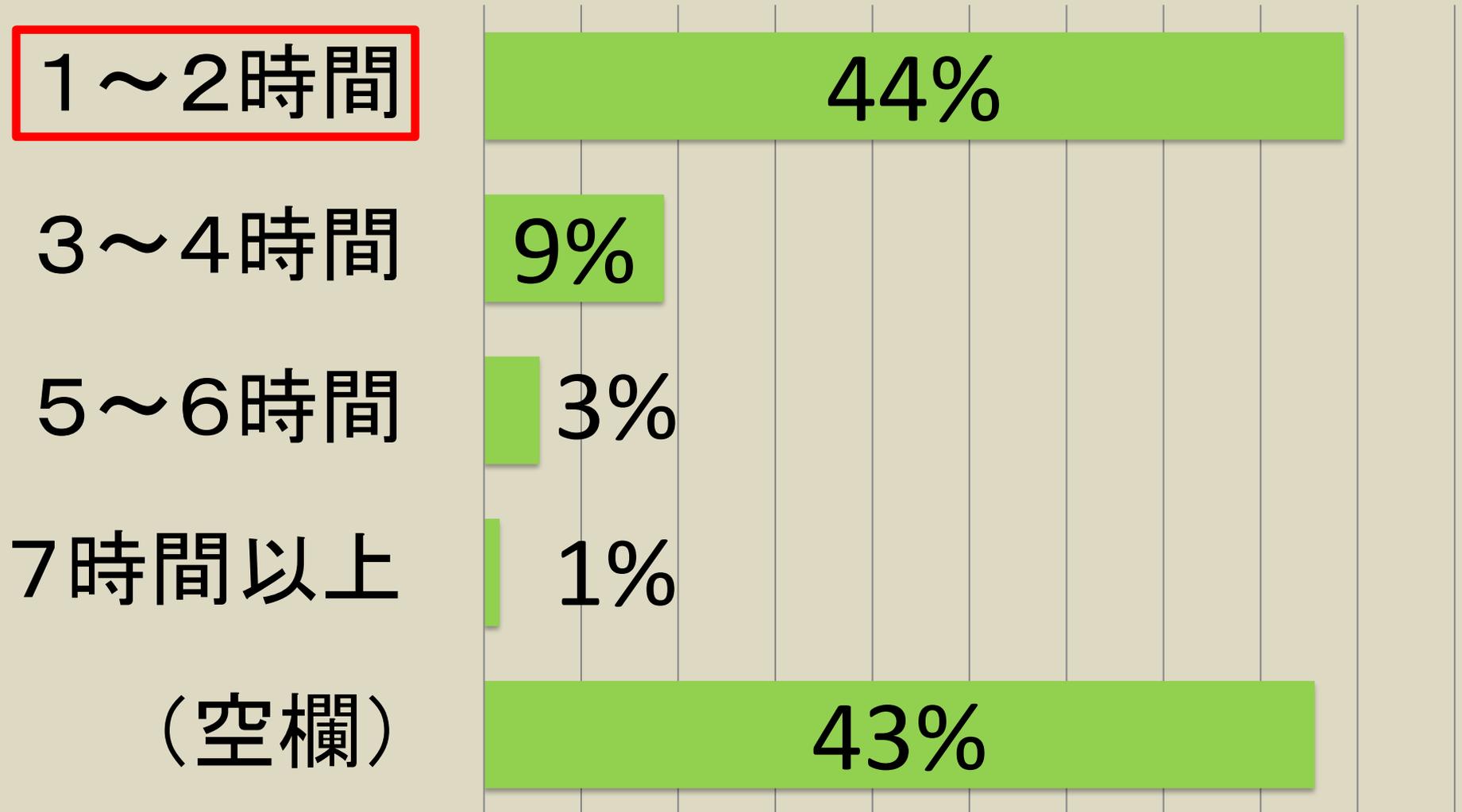
【18-8】「生活の課題と実践」の家庭や地域での実践に取り組む時期（2年生）



【18-10】「生活の課題と実践」において、 どの内容で実施しているか（3年生）



【18-11】「生活の課題と実践」の指導時数(家庭での実践時間は除く)(3年生)



【18-12】「生活の課題と実践」の家庭での実践に取り組む時期（3年生）

A～Cの学習の途中

27%

長期休業等

26%

学期中の週末休業日等

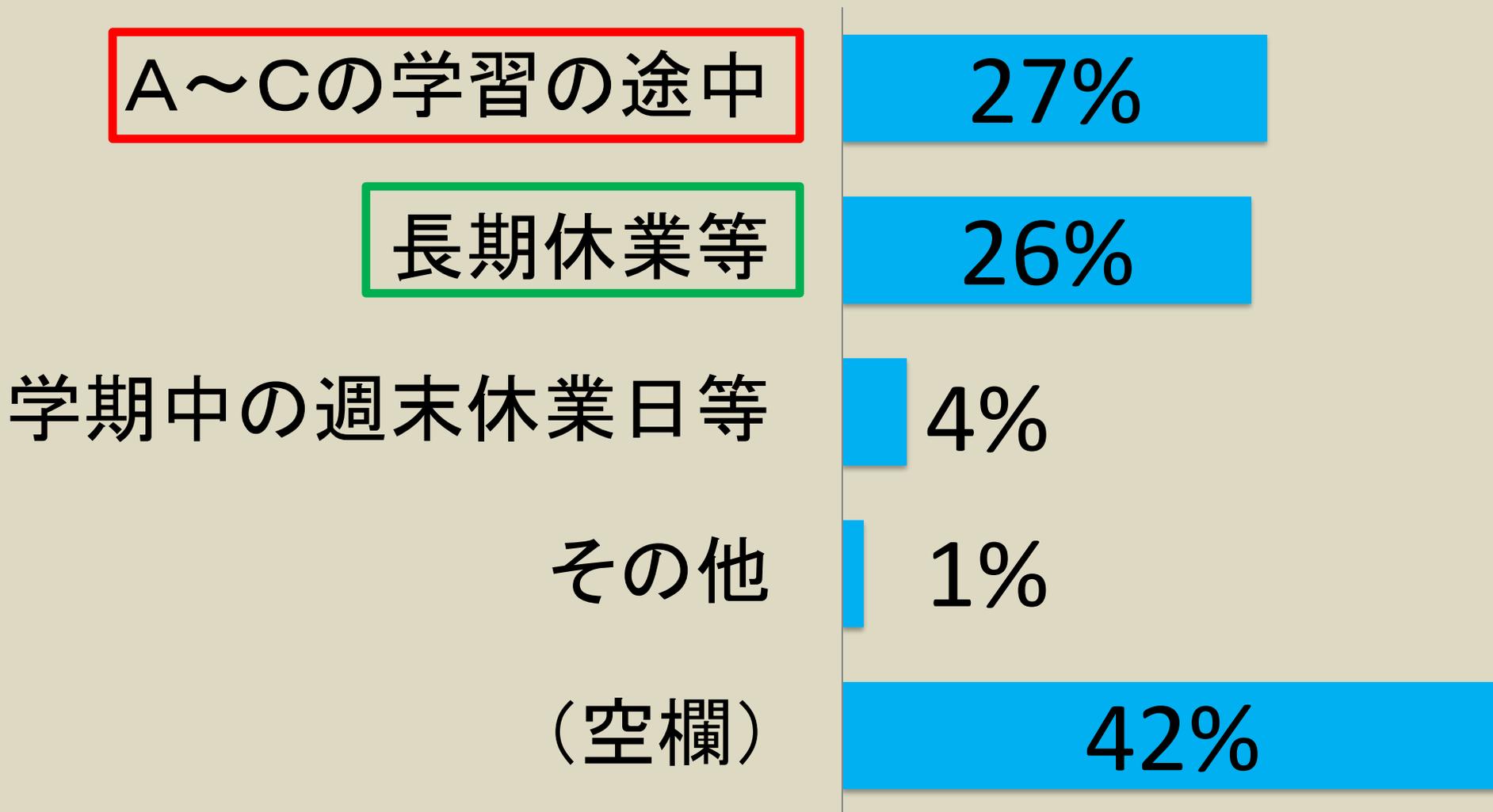
4%

その他

1%

（空欄）

42%



【18-14】「生活の課題と実践」の学習を通して、得られた成果（2つ以内）

家族・家庭や衣食住の学習に関心をもち、進んで生活の課題を見つけることができた。

39%

学んだ知識や技術などを活用し、課題を解決するための計画を立て実践することができた。

30%

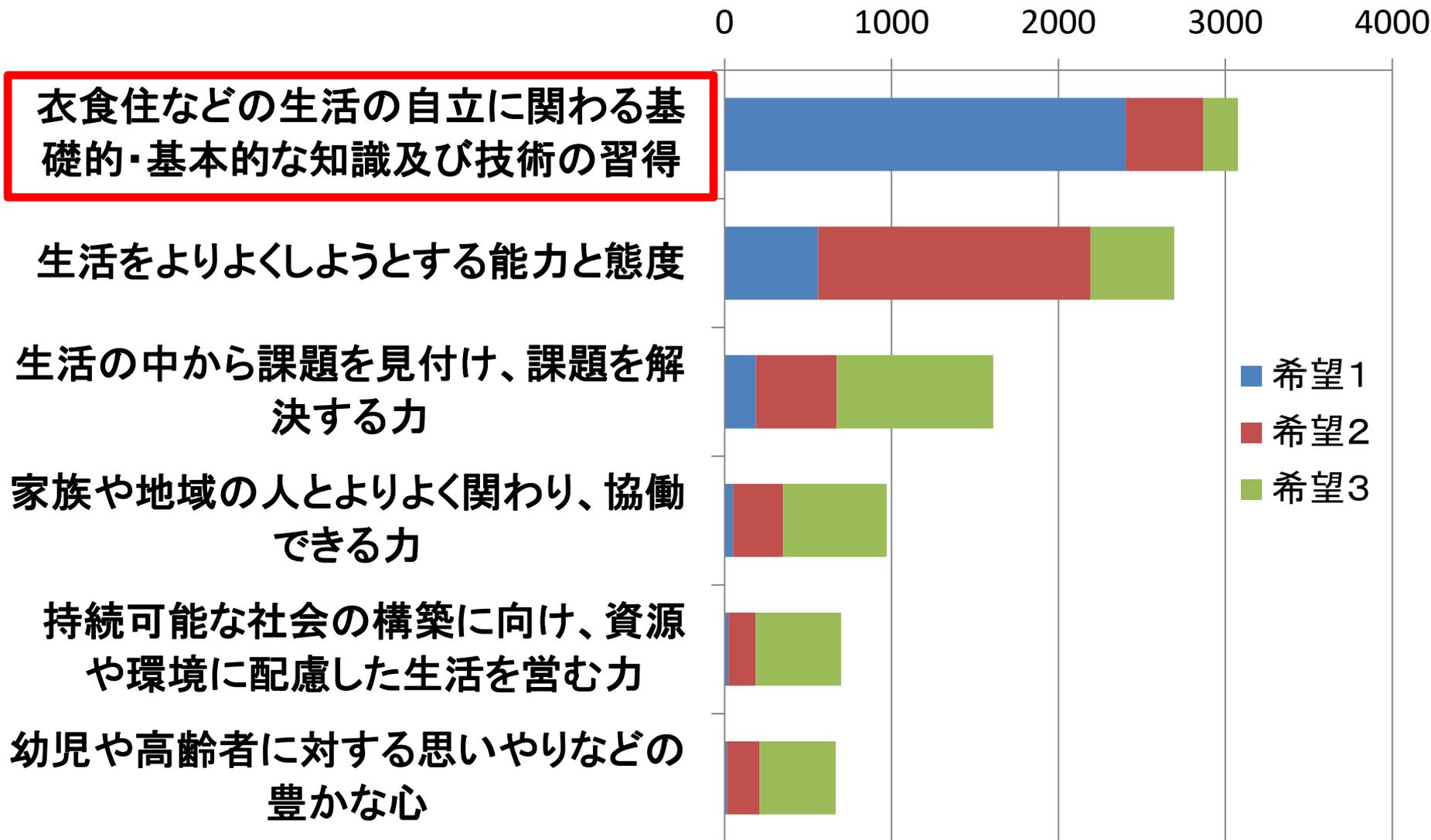
自分や家族のこれからの生活を展望し、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることが...

21%

発表会等を通して、実践の成果や課題を確認することができた。

10%

3年間の家庭分野の学習を通して、生徒がどのような力を身に付けるか



【20】(家庭分野)を中核として、食育の充実に取り組んでいるか

取り組んでいる

27%

どちらかといえば取り組んでいる

48%

どちらかといえば取り組んでいない

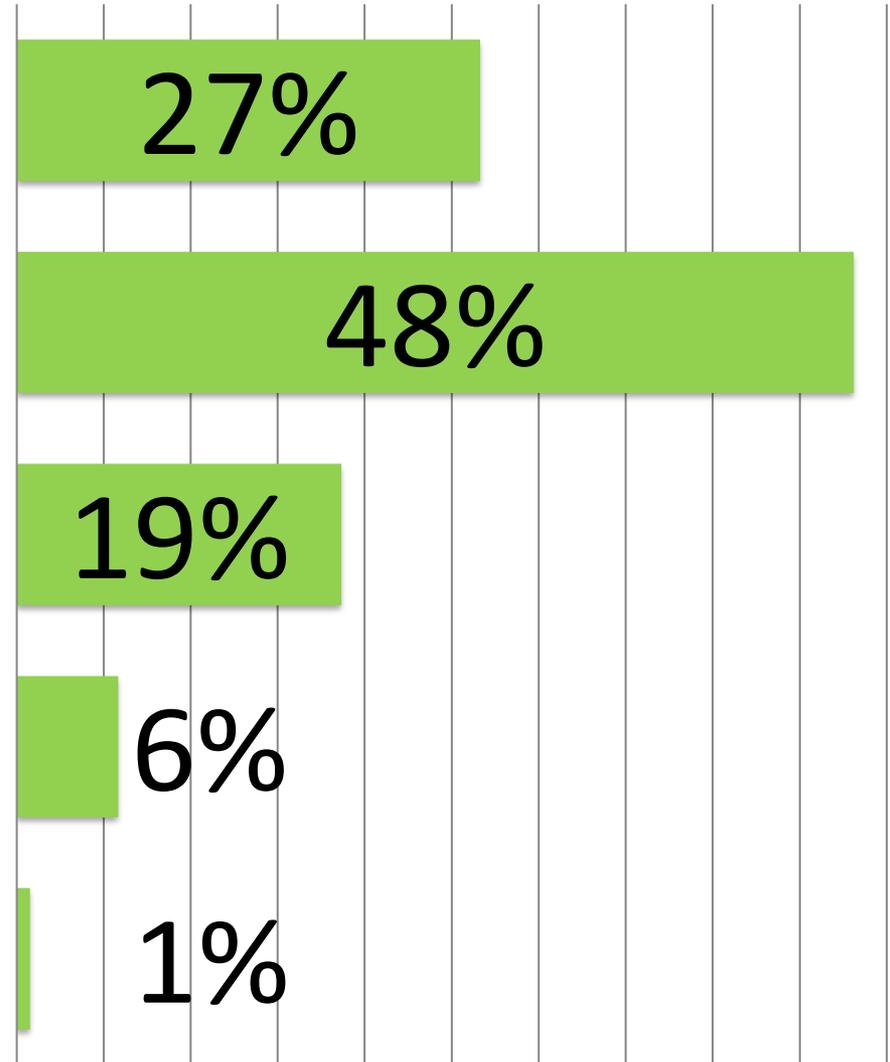
19%

取り組んでいない

6%

(空欄)

1%



【21】(家庭分野)を中核として、消費者教育の充実に取り組んでいるか

取り組んでいる

13%

どちらかといえば取り組んでいる

40%

どちらかといえば取り組んでいない

37%

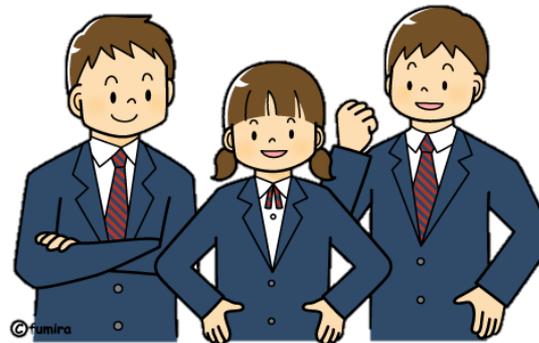
取り組んでいない

10%

(空欄)

1%

平成27年度
中学校 技術・家庭科に関する
第3回全国アンケート調査 【家庭分野】
調査報告



全日本中学校技術・家庭科研究会
研究調査部
調査協力：公益社団法人 全国中学校
産業教育教材振興協会